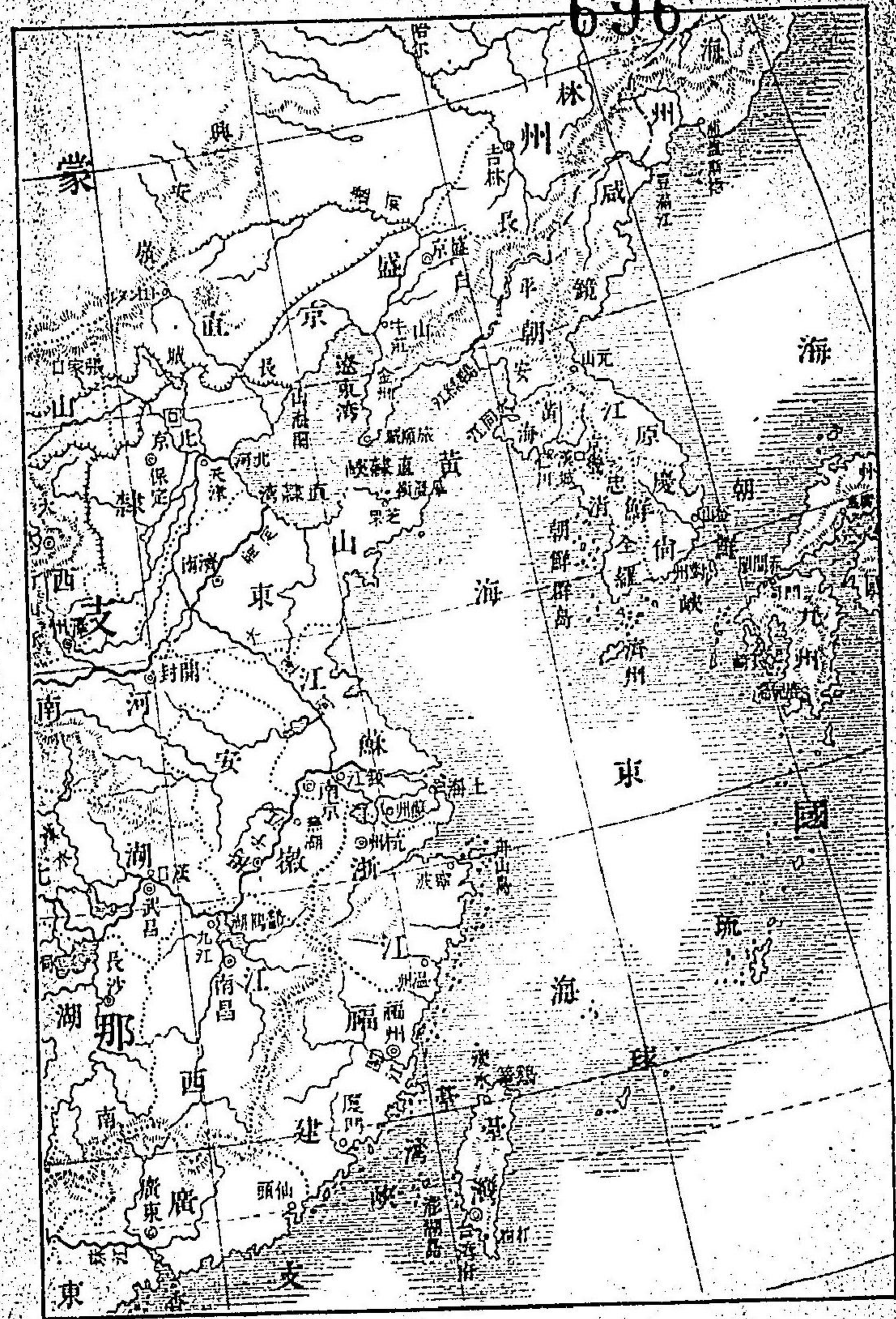


162
1097

外内
懷中節用

特65
696



○目 録

明治廿八年略曆	三	徵兵告諭	四六
方位早見表	四	徵兵令	四九
日曜表	五	日本軍備一覽	六二
徵兵適齡表	五	各師團諸隊隊數表	六五
年數早見表	六	軍艦團隊定員表	六八
滿年求月表	七	日本軍艦表	七一
府縣區劃表	八	清國兵制一斑	七四
市町村人口表	〇	清國軍艦表	七七
地方廳里程表	二	徵發令	七九
皇室御系	四	戒嚴令	八四
皇族御系	五	法律規則中戰時ト稱スル場合	八八
御歴代表及年號表	六	條約締盟國	八八
事蹟年表摘要	一	日英改正條約	八九
皇室典範	二	郵便條例摘要	一一二
帝國憲法	三	小包郵便法摘要	一一五
教育勅語	四	小包郵便發送里程表	一一六
徵兵の詔書	五	小包郵便差出方心得	一二五

目 録

一

乙未 明治二十八年略曆

略歴 方位早見表

小 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二	未 一月七日 三月七日 五月九日 七月十三日 九月十五日 十一月十五日 一月十七日 三月十九日 五月二十日 七月二十一日 九月二十二日 十一月二十二日	神武天皇祭 四月三日 秋季皇靈祭 九月廿三日 神嘗祭 十月十七日 新嘗祭 十一月廿三日	庚申 四月十三日 五月十三日 六月十三日 七月十三日 八月十三日 九月十三日 十月十三日 十一月十三日 十二月十三日	神武天皇即位紀元二千五百五十五年 西曆一千八百九十五年 平年 三百六十五日	甲子 一月一日 二月十一日 三月十一日 四月十一日 五月十一日 六月十一日 七月十一日 八月十一日 九月十一日 十月十一日 十一月十一日 十二月十一日	四 方 始 祭 元 始 祭 孝 明 天 皇 祭 紀 元 節 春 季 皇 靈 祭	一月一日 一月三日 一月三十日 二月十一日 二月廿一日 三月十一日	大 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二	午 十二月六日 未 二月五日 申 四月七日 巳 五月九日 午 六月十一日 未 八月十三日 申 九月十五日 酉 十月十五日 戌 十一月十五日 亥 十二月十八日
---	---	--	---	---	---	--	--	---	---

目錄終

郵便爲替料	二七	官員錄摘要	一七三
電信爲替料	二八	征清軍編制及各隊將官一覽	一八〇
內國電報料	二八	清國文武官鑑	一八一
郵便貯金法摘要	三一	朝鮮顯官名鑑	一八二
外國郵便規則	三一	支那地理案内	一八三
外國郵便爲替表付取扱局名	三二	四季東京名勝案内	一八四
海外電信料摘要	三三	東京私立銀行	一八六
證券印稅摘要	三三	東京著名旅館	一八七
民事訴訟用印紙法摘要	三九	東京著名刺店	一八八
商事非訟事件印紙法	四〇	各國度量衡表	一八九
登記及手数料	四一	日本全國鐵道線路及航海路	〇〇
商業及船舶ニ關スル手数料	四二		
全國汽車乘車賃金表	四三		
全國汽車發着時間表	四三		
日本郵船會社船客運賃表	六八		
第四回內閣博覽會出品人心得	七〇		
金鵝勳章年金令	七二		

(表見方位方)

大さい未の方 <small>此方向ひて方よし 但し木をきらす</small>	大しやうぐん卯の方 <small>三年ふさがり</small>	大おん巳の方 <small>此方向ひてさんな せす</small>	さいけう丑の方 <small>此方向ひてたれま す</small>	歳徳 <small>あきの方申酉 の間萬よし</small>	金神 <small>みつ</small>	さいは丑の方 <small>此方向わたまし ふねのりはじめ</small>	さいせつ戌の方 <small>此方向ひてよめこ らす</small>	わうばん未の方 <small>此方向ひて身はじ めよし</small>	へうび丑の方 <small>此方向ひてちくる ぬもさめす</small>
---	------------------------------------	--	--	---------------------------------------	-------------------------	--	---	--	---

星金白六命本

方之乾殺劍暗

日曜表

十一月	十二月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
二	一	三	二	四	三	五	四	六	五	七	六	八	七
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
八	七	六	五	四	三	二	一	三	二	四	三	五	四
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	三	二	四	三
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
廿	廿	三	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿	廿
九	九	十	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日

○徴兵適齡表 (明治廿八年ヨリ全卅二年迄ノ分)

明治廿八年	明治廿九年	明治三十年	明治三十一年	明治三十二年	明治三十三年	明治三十四年	明治三十五年	明治三十六年	明治三十七年	明治三十八年	明治三十九年	明治四十年	明治四十一年	明治四十二年
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月	二月
迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄
十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄	迄

日曜表 徴兵適齡 年數早見表

〇一道廳三府四十三縣區劃表

府縣名	管轄國名	縣名	管轄國名	縣名	管轄國名
東京	武藏ノ内、伊豆七島、小笠原島、	山梨	甲斐、	廣島	備後、安藝、
京都	山城、丹波ノ内、丹後、	滋賀	近江、	山口	周防、長門、
大阪	攝津ノ内、河内、和泉、	岐阜	美濃、飛騨、	和歌山	紀伊ノ内、
神奈川	武藏ノ内、相模、	長野	信濃、	徳島	阿波、
兵庫	攝津ノ内、播磨、但馬、丹波ノ内、淡路、	宮城	陸前ノ内、磐城ノ内、	香川	讃岐、
長崎	肥前ノ内、豊岐、對馬、	福島	磐城ノ内、岩代、	愛媛	伊豫、
新潟	越後、佐渡、	岩手	陸中ノ内、陸奥ノ内、陸前ノ内、	高知	土佐、
埼玉	武藏ノ内、下總ノ内、	青森	陸奥ノ内、	福岡	筑前、筑後、豊前ノ内、

八

千葉	安房、上総、下總ノ内、	山形	羽前、羽後ノ内、	大分	豊前ノ内、豊後、
茨城	常陸、下總ノ内、	秋田	羽後ノ内、陸中ノ内、	佐賀	肥前ノ内、
群馬	上野、	福井	若狹、越前、	熊本	肥後、
栃木	下野、	石川	加賀、能登、	宮崎	日向ノ内、
奈良	大和、	富山	越中、	鹿兒島	日向ノ内、大隅、薩摩、
三重	伊賀、伊勢、志摩、	鳥取	因幡、伯耆、	沖繩	琉球、
愛知	尾張、三河、	島根	出雲、石見、隠岐、	北海道	渡島、後志、石狩、天鹽、北見、釧路、根室、千島、
静岡	伊豆ノ内、駿河、遠江、	岡山	美作、備前、備中、		

此表ノ内東京、京都、大阪ヲ府ト云ヒ神奈川外四十二ヲ縣ト云ヒ北海道ヲ廳ト云フ
 ニハ長官アリ府縣ニハ知事アリ中央政府ノ命ヲ禀ケテ政務ヲ管理ス而シテ其ノ下ニ
 市區郡役所アリ又其ノ下ニ町村役場アリ且府縣會アリテ地方ノ政務ニ參與ス

府縣區劃表

九

○市町村人口(二万以)表 (明治廿四年現在數)

市町村名	人口	市町村名	人口	市町村名	人口
東京市	一、二六、一八〇〇	那覇	四、二九七三	佐賀市	二、八四四九
大阪市	四八、三六〇九	福井市	四、一五九七	宇治市	二、八三五六
京都市	二九、七五二七	静岡市	三、八三三一	津市	二、七八三七
名古屋市	一七、九一七四	松江市	三、四五七三	長野市	二、七三七六
神戸市	一四、二九六五	高松市	三、四六二五	水戸市	二、七〇九〇
横濱市	一三、二六二七	松山市	三、四五七三	高崎市	二、六九一三
金澤市	九、三五三一	赤間關市	三、三一三三	姫路市	二、六九〇三
廣島市	九、〇一五四	甲府市	三、三〇五五	松本市	二、六六五七
仙臺市	六、四四七六	高知市	三、三〇三九	難波村	二、六六一九

市町村人口表

長崎市	六、〇五八一	前橋市	三、二五三一	首里	二、五六八一
徳島市	五、九九六九	盛岡市	三、一八八六	久留米市	二、五七一九
富山市	五、九〇九〇	大津町	三、一八五七	奈良町	二、五〇五〇
熊本市	五、六六一八	宇都宮町	三、一二六八	若松町	二、四六〇〇
鹿児島市	五、六一五七	岐阜市	三、〇九九四	谷山村	二、四四四六
函館市	五、七九四三	弘前市	三、〇五〇〇	千葉町	二、四三六八
和歌山市	五、五六六八	高岡市	二、九六八四	札幌區	二、五六三四
福岡市	五、四八五五	米澤市	二、九五二八	八王子町	二、二六一〇
新潟市	四、七二〇一	鳥取市	二、九〇一九	青森町	二、二一四二
岡山市	四、七〇〇二	秋田市	二、八九七七	酒田町	二、一一〇七
境市	四、四九九〇	山形市	二、八九五七	高田町	二、〇四〇三
				高田町	二、〇三一
				額姓村	二、〇〇九六

○自東京日本橋
至各地方總距離里程表

地名	元標所在	里程	地名	元標所在	里程
北海道廳	札幌	二七六	秋田	大館	一五一
京都	三條大橋	一三一	福島	照手上町	一三七
大阪	高麗橋	一四四	石川	金澤尾張町	一五九
神奈川	橫濱本町	一四〇	富山	西町	一〇八
兵庫	神戶元町通	一五〇	島根	松江堅町	一九四
長崎	外浦	三四四	岡山	橋本	二二一
新潟	本浦	一〇九	廣島	細工町	一八六
埼玉	浦和	一〇六	山口	大市橋	二六六
千葉	千葉	一〇	和歌山	京橋	一六一
茨城	水戸上市	二九			

地方總距離里程表

地名	元標所在	里程	地名	元標所在	里程
群馬	前橋連雀町	二八	德島	西橫町	一七六
栃木	宇都宮池上町	二七	香川	高松常盤橋	二〇七
奈良	三條通	一四〇	愛媛	松山札ノ辻	二三七
三重	津分部町	一二三	高知	本町	二三四
愛知	名古屋鐵砲町	九五	福岡	橋口町	三〇三
靜岡	吳服町	四六	佐賀	白山町	三二四
山梨	甲府錦町	三四	大分	碩田町	三一七
滋賀	大津上京町	二八	熊本	新田町	三二五
岐阜	白木町	一〇四	宮崎	上野町	三六八
長野	大門町	五九	鹿兒島	山下町	三八一
宮城	仙臺大町	九二	岩手	盛岡紺屋町	一四〇
福島	上町	七一	青森	米町	一九二
山形	七日町	九五	沖繩	那霸	五七四

○皇室御系

今上天皇 諱睦仁

孝明天皇第二皇子○嘉永五年九月廿二日(十一月三日)御降誕○慶應三年正月九日御踐祚○慶應四年八月廿七日御即位

皇太后宮 諱夙子

故一位九條尚忠第六女○天保四年十二月十四日御降誕○嘉永六年五月七日准后宣下○慶應四年三月十八日皇太后宣下

皇后宮 諱美子

故從一位一條忠香第三女○嘉永三年四月十七日御降誕○明治元年十二月二十八日入内○同年同月同日皇后宣下

皇太子宮 諱嘉仁

今上天皇第三皇子○明治十二年八月三十一日御降誕○同二十年八月三十一日東宮宣下○同廿三年二月十一日皇太子册立

常 宮 諱昌子

今上天皇第六皇女
明治二十一年九月三十日御降誕

周 宮 諱房子

今上天皇第七皇女
明治二十三年一月二十八日御降誕

富美宮 諱允子

今上天皇第八皇女
明治廿四年八月七日御降誕

○皇 族

有栖川宮大勳位熾仁親王

妃勳一等董子

有栖川宮大勳位威仁親王

妃勳一等慰子

小松宮大勳位彰仁親王

妃勳一等賴子

伏見宮大勳位貞愛親王

妃勳一等利子

北白川宮大勳位能久親王

妃勳一等富子

山階宮勳一等晃親王

御繼嗣菊麿王

閑院宮大勳位載仁親王

妃勳一等知惠子

久邇宮勳一等邦憲王

故朝彦親王第二子
慶應三年御生誕

皇室御系 皇族

梨本宮勳一等守正王
 華頂宮 博恭王
 華頂宮 故三品博恭王
 給親王妃郁子

○御歷代表附年號表

御代	天皇	年	號	攝政
皇祖天照皇大神	一神	二神	武	攝政
二安	靖	二二	雄	攝政
三安	寧	二二	清	攝政
四懿	德	二四	仁	攝政
五孝	昭	二五	武	攝政
六孝	安	二六	繼	攝政
攝政	攝政	攝政	攝政	攝政

故朝彥親王第四子
 明治七年三月御生誕
 貞愛親王第一子
 明治八年十月御生誕
 南部利剛第一女
 嘉永六年八月御生誕

御代	天皇	年	號	攝政
七孝	元	二七	安	攝政
八孝	化	二八	宣	攝政
九開	神	二九	欽	攝政
一〇崇	仁	三〇	敏	攝政
一一垂	行	三一	用	攝政
一二景	務	三二	崇	攝政
一三成	務	三三	推	攝政
一四仲	哀	三四	舒	攝政
一五應	神	三五	皇	攝政
一六仁	德	三六	孝	攝政
一七履	仲	三七	齊	攝政
一八反	正	三八	天	攝政
一九允	恭	三九	弘	攝政
攝政	攝政	攝政	攝政	攝政

御歷代表

御代	天皇	年	號	攝政
四〇天	武			御親
四一持	統			
四二文	武	〔朱鳥一五、大寶三、慶雲四〕		
四三元	明和銅		七	
四四元	正靈龜二、養老七、武神龜五、天平二〇、			
四五聖	謙天平勝寶、		八	
四六孝	仁天平寶字、		八	
四七淳	德〔天平神護、神護景雲〕		三三	
四八稱	仁寶龜一、天應一、		四	
四九光	武延曆、		二四	
五〇桓	城大同、		四	

御代	天皇	年	號	攝政
六五花	山	〔寬和、永延二、永祥一、正〕		藤原
六六一	條	〔長弘八、長保二、〕		
六七三	條	〔長和、〕		
六八後	一條	〔長久四、〕		
六九後	雀	〔長久四、〕		
七〇後	泉	〔長久四、〕		
七一後	三冷	〔長久四、〕		
七二白	河	〔長久四、〕		
七三堀	河	〔長久四、〕		
七四鳥	羽	〔長久四、〕		
七五崇	德	〔長久四、〕		

御代	天皇	年	號	攝政
五二嵯	哦弘仁、		一四	
五三淳	和天長、		一〇	
五四仁	明承和一二、嘉祥三、			
五五文	德〔仁壽三、齊衡三、天〕			
五六清	和貞觀、		一八	
五七陽	成元慶、		八	
五八光	孝仁和、		四	
五九宇	多寬平、		九	
六〇醜	嗣〔昌泰三、延喜二二、〕			
六一朱	雀承平七、天慶九、			
六二村	上〔天曆一〇、天德四、〕			
六三冷	泉〔應和三、康保三、〕			
六四圓	融〔天祿三、天延三、貞〕			

御代	天皇	年	號	攝政
七六近	衛	〔安治二、天養一、久壽〕		院中
七七後	河	〔保元、〕		
七八二	條	〔平治一、永曆一、〕		
七九六	倉	〔嘉應二、承安四、〕		
八〇高	德	〔元治二、〕		
八一安	羽	〔久壽二、〕		
八二後	門	〔正治二、建仁三、〕		
八三土	德	〔久壽二、〕		
八四順	恭	〔久壽二、〕		
八五仲	河	〔真應二、元仁一、〕		
八六後	條	〔三、〕		
八七四	禎	〔天福一、文曆一、〕		

御歴代表

一九

一八

御代	天皇	年	號	攝政
八八後	嵯峨	元	寬治二、建長七、康四	鎌倉幕府
八九後	深草	元	正嘉二、正元	
九〇龜	山	元	文應一、弘長三、文永二	
九一後	宇多	治三、弘安一〇、		
九二伏	見	正應五、永仁六、		
九三後	伏見	正安		
九四後	二條	乾元一、嘉元三、德治二、應長一、正延慶三、應長一、正和五、文保二、元應二、元享三、正元應二、嘉曆三、元德二、元弘三、建武		御親
九五花	圓			幕府
九六後	醍醐			室町幕府
九七後	村上			興國六、正平二四、

御代	天皇	年	號	攝政
一〇四後	泰長	元	享祿四、天文二二、弘治三、	室町幕府
一〇五正	親	元	承祿二二、元龜三、	織田氏
一〇六後	陽成	元	天正一九、文祿四、慶長一九、文祿四、	豐臣氏
一〇七後	水尾	元	元和	德川幕府
一〇八明	正寬	元	寬永	
一〇九後	光	元	正保四、慶安四、承應三、	
一一〇後	西院	元	明曆三、萬治三、	
一一一靈	元	元	寬文三、延寶八、天和三、貞享四、	
一一二東	山	元	元祿一六、寬永七、	
一一三中	御門	元	正德五、享保二〇、	
一一四櫻	町	元	元文五、寬保三、延享四、	

二〇

御代	天皇	年	號	攝政
九八後	龜山	元	建德一、文中三、天德六、弘和三、元中九、	
九九後	小松	元	永德三、至德三、喜慶二、康應一、明德三、	
一〇〇稱	光	元	應永	
一〇一後	花園	元	正長一、永享二、嘉吉三、文安五、寶德三、享德三、康正二、長祿三、寬正二、	
一〇二後	土御門	元	應仁二、文明一八、長享二、延德三、明應九、	
一〇三後	柏原	元	文龜三、永正一七、大永七、	

御代	天皇	年	號	攝政
一一五桃	圓	元	寬延三、寶曆三、	
一一六後	櫻町	元	天明和	
一一七後	桃園	元	安永	
一一八光	格	元	永明八、寬政二二、享和三、文化一四、	
一一九仁	孝	元	文政二二、天保一四、弘化四、	
一二〇孝	明	元	嘉永六、安政六、萬延一、文久三、元治一、慶應三、	
一二一今	上	元	明治	

○年表摘要

年代	事	蹟
六五六	神武帝即位 天照大神ヲ伊勢ニ祭ル	
七五七	日本武尊熊襲ヲ征ス	
七七〇	全東夷ヲ征ス	

御歴代表

八六一 神功皇后三韓ヲ征ス
 九四五 百濟王仁漢籍ヲ奉ル
 九七六 仁德帝謀殺ヲ免ス
 一一二 佛敎百濟ヨリ來ル
 一一二 佛敎百濟ヨリ來ル
 一二六七 使ヲ隋ニ遣ル
 一二八一 聖德太子薨ス
 一三〇五 大化ノ維新
 一三一八 阿倍比羅夫蝦夷ヲ代ツ
 一三三二 壬申ノ亂
 一三七〇 元明帝都ヲ奈良ニ遷ス
 一四〇九 奈良ノ大佛成ル
 一四二四 押勝ノ亂
 一四二九 和氣清麻呂流サレ
 一四五二 坂上田村麻呂蝦夷ヲ代ツ
 一四五四 桓武帝都ヲ山城ノ京ニ遷ス
 一四七六 弘法大師高野山ヲ開ク
 一五六一 菅原道真大宰府ニ遷サレ
 一五九九 將門純友叛ス
 一六一六 治承四年ノ變結マシ

一一二六 應仁ノ亂
 一一三〇 一 葡萄牙人砲術ヲ傳フ
 一一三九 桶狭間ノ戰
 一一四〇 川中島ノ戰
 一一四二 武田信玄卒ス
 一一四三 上杉謙信卒ス
 一一四四 光秀信長ヲ弑ス
 一一四二 小牧ノ戰ヒ
 一一四四 豐臣秀吉關白トナル
 一一五一 朝鮮征伐
 一一五七 秀吉薨ス
 一一五九 關原ノ戰
 一二六二 徳川家康將軍トナル
 一二六四 山田長政シヤムニ入ル
 一二七三 大阪冬陣
 一二七四 豐臣氏亡ブ
 一二九七 島原一揆
 一三一一 山井正雪ノ亂
 一三三一 勤王變

一七〇六 慶長三年ノ變結マシ
 一八一六 保元ノ亂
 一八一九 平治ノ亂
 一八二七 平清盛太政大臣トナル
 一八四五 平氏亡ブ
 一八四七 源賴朝總追捕使トナル
 一八五三 曾我ノ仇討
 一八七九 源氏亡ブ
 一八八一 承久ノ亂
 一八八一 北條泰時執權トナル
 一九四一 弘安ノ元寇
 一九九一 後醍醐帝笠置ニ幸ス
 一九九三 北條氏亡ブ
 一九九五 尊氏謀叛ス
 一九九六 正成湊川ニ戰死ス
 二〇〇八 正行四條畷ニ死ス
 二〇五一 南北朝和議成ル
 二〇五六 足利義滿ノ金閣寺成ル
 二〇九七 持氏ノ亂

二二六〇 薩長先鋒薨ス
 二二六一 赤穂義士ノ復讐
 二二五三 へるり浦賀ニ來ル
 二二五六 江あり來ル
 二二五八 幕府假條約ヲ結ブ
 二二七〇 櫻田ノ變
 二二七五 條約勅許
 二二七七 今上天皇即位王政復古
 二二七八 江戸ヲ東京ト改ム聖駕東幸ス
 二五三一 郵便電信ヲ設ク
 二五三二 徴兵令ヲ頒ツ
 二五三四 佐賀ノ亂アリ臺灣ヲ征ス
 二五三五 大嘗院及元老院ヲ置ク
 二五三七 鹿兒島ノ亂
 二五四一 國會開設ノ期ヲ公布ス
 二五四九 憲法ヲ發布ス
 二五五〇 帝國議會ヲ東京ニ開ク
 二五五四 英清條約改正成ル朝鮮内亂アリ清國ト宣戰ヲ公布セラル

年表

1111

○皇室典範 明治廿二年二月十一日發布

天佑ヲ享有シタル我カ日本帝國ノ寶祚ハ萬世一系歷代繼承シ以テ朕カ躬ニ至ル惟フニ祖宗肇國ノ初大憲一タビ定マリ昭ナルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ宜シク遺訓ヲ明徴ニシ皇家ノ成典ヲ制立シ以テ不基ヲ永遠ニ鞏固ニスベシ茲ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經皇室典範ヲ裁定シ朕カ後嗣及子孫ヲシテ遵守スル所アラシム

第一章 皇位繼承 (第條ヲ略ス以下準之)

- 一 大日本國位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス○二 皇位ハ皇長子ニ傳フ○三 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス○四 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ

繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサルトキニ限ル○五 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳フ○六 皇兄弟及其子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ○七 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラサルトキハ其以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ○八 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス○九 皇嗣精神若クハ身體ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位

- 十 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク○十一 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ○十二 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メザルコト明治元年ノ定制ニ從フ

第三章 成年立后立太子

二六

十三 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス○十四 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス○十五 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス○十六 皇后皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章 敬稱

十七 天皇太皇太后皇太后皇后ノ敬稱ハ陛下トス○十八 皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王妃親王妃内親王王妃女王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章 攝政

十九 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク 天皇久キニ亘ルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルキハ皇族會議及樞密顧問

ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク○二十 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス○二十一 皇太子皇太孫アラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス 第一親王及王 第二皇后 第三皇太后 第四太皇太后 第五内親王及女王○二十二 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス○二十三 皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其配偶アラサル者ニ限ル○二十四 最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其任ヲ讓ルコトナシ○二十五 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若クハ身體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ其順序ヲ換フルヲ得

第六章 太傅

皇統典範

二七

二十六 天皇未タ成年ニ達セサルハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム○
 二十七 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セサリシハ攝政ヨリ皇族會議及
 樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選任ス○二十八 太傅ハ攝政及其子孫之ニ任
 スルコトヲ得ズ○二十九 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル
 後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシムルコトヲ得ズ

第七章 皇族

三十 皇族ト稱フルハ太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇子妃、皇太
 孫、皇太孫妃、親王、親王妃、內親王、王、王妃、女王ヲ謂フ○三十一
 皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ內親王トシ五世以下ハ男
 ヲ王、女ヲ女王トス○三十二 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承クルトキ
 ハ皇兄弟姉妹ノ王女王タル者ニ特ニ親王、內親王ノ號ヲ宣賜ス○三

十三 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス○三十四 皇
 統譜及前條ニ關ル記錄ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス○三十五 皇族ハ天皇
 之ヲ監督ス○三十六 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス○三十七
 皇族男女幼年ニシテ父ナキモノハ宮内ノ官寮ニ命ジ保育ヲ掌ラシム
 事宜ニ依リ天皇ハ其ノ父母ノ選舉セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅選
 スヘシ○三十八 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル○三十九
 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル○
 四十 皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル○四十一 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ
 勅書ハ宮内大臣之ニ副署ス○四十二 皇族ハ養子ヲ爲スヲ得ズ○
 四十三 皇族國疆ノ外ニ旅行セントスルトキハ勅許ヲ請フヘシ○四
 十四 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラズ但シ特旨ニ

依リ仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルベシ

三〇

第八章 世傳御料

四十五 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ズ○四十六 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費

四十七 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム○四十八 皇室經費ノ豫算決算検査及其ノ他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章 皇族訴訟及懲戒

四十九 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ

命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス○五十 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ認廷ニ出ルヲ要セズ○五十一 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレバ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス○五十二 皇族其品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順缺クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若クハ剝奪スベシ○五十三 皇族遺產ノ所行アルトキハ勅旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ任スヘシ○五十四 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章 皇族會議

五十五 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院

皇室典範

三一

議長宮内大臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム○五十六 天皇ハ
皇族會議ニ親臨シ又皇族中ノ一員ニ命シテ議長タラシム

第十二章 補則

五十七 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル○
五十八 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他
ノ繼嗣タルノ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ○五十九 親王内親王王
女王ノ品位ハ之ヲ廢ス○六十 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ抵觸
スル例規ハ總テ之ヲ廢ス○六十一 皇族ノ財産歳費及諸規則ハ別ニ
之ヲ定ムベシ○六十二 將來此典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキ
ノ必要アルニ當テハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ勅定スベ
シ

○大日本帝國憲法 明治二十二年二月十一日發布

第一章

一 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス○二 皇位ハ皇室典範
ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス○三 天皇ハ神聖ニシテ侵ス
ヘカラス○四 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條
規ニ依リ之ヲ行フ○五 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ
○六 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス○七 天皇ハ帝國
議會ヲ召集シ其開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス○八 天皇ハ公
共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議
會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス 此ノ勅令ハ次ノ會
期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セザルトキハ政府

憲法

ハ將來ニ向テ其効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ〇九 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ズ〇十 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ゲタルモノハ各々其ノ條項ニ依ル〇十一 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス〇十二 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム〇十三 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス〇十四 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム〇十五 天皇ハ爵位勳章及其他ノ榮典ヲ授與ス〇十六 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス〇十七 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

十八 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル〇十九 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任セラレ及其他ノ公務ニ就クコトヲ得〇二十 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス〇廿一 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納税ノ義務ヲ有ス〇廿二 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス〇廿三 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非ズシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ〇廿四 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ〇廿五 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セララル、コトナシ〇廿六 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵

サル、コトナシ○廿七 日本臣民ハ其所有權ヲ侵サル、コナシ 公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル○廿八 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケズ及臣民タルノ義務ニ背カザル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス○廿九 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス○三十 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得○卅一 本章ニ掲ゲタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ○卅二 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ抵觸セザルモノニ限り軍人ニ準行ス

第三章 帝國議會

卅三 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス○卅四 貴族院

ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス○卅五 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス○卅六 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ズ○卅七 凡テ法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス○卅八 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出スルコトヲ得○卅九 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ビ提出スルコトヲ得ズ○四十 兩議院ハ法律又ハ其他ノ事件ニ付各々其意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其採納ヲ得ザルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ズ○四十一 帝國議會ハ每年之ヲ召集ス○四十二 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルベシ○四十三 臨時緊急ノ必要アル場合

ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル○四十四 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ 衆議院解散ヲ命ゼラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルベシ○四十五 衆議院解散ヲ命ゼラレタルトキハ勅令ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ○四十六 兩議院ハ各其總議員三分ノ一以上出席スルニ非ザレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ズ○四十七 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可ク同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル○四十八 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得○四十九 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得○五十 兩議院ハ臣民ヨリ提出スル請願書ヲ受クルコトヲ得○五十一 兩

議院ハ此憲法及議院法ニ掲グルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得○五十二 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及議決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但議員自ラ其言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ○五十三 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除クノ外會期中其ノ院許諾ナクシテ逮捕セラルコトナシ○五十四 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問

五十五 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任スルヲ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅國務大臣ノ副署ヲ要ス○五十六 樞密顧問ハ樞密院

官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

四〇

第五章 司法

五十七 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム 五十八 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス 裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其職ヲ免セラルヽコトナシ懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム 五十九 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧ノ秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルルキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得 六十 特別裁判所ノ管轄ニ屬スベキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム 六十一 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判

所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章 會計

六十二 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムベシ 但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラズ 國債ヲ起シ及豫算ニ定メタル者ヲ除ク外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ベシ 六十三 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メザル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス 六十四 國家ノ歳出歳入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ヘシ 豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生ジタル支出アルキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス 六十五 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ 六十六 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額

憲法

四一

ヲ要スル場合ヲ除ク外帝國議會ノ協賛ヲ要セズ〇六十七 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及法律ノ結果ニヨリ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ズ〇六十八 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得〇六十九 避クベカラザル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生ジタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クベシ〇七十 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハザルキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得 前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其承諾ヲ求ムルヲ要ス〇七十一 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セズ又ハ豫算成立ニ至ラザルキ

ハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ〇七十二 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ 會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

七十三 將來此ノ憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅令ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ 此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々其ノ議員三分ノ二以上出席スルニ非サレバ議事ヲ開クコトヲ得ズ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレバ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ズ〇七十四 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セズ 皇室典範ヲ以テ此憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ズ〇七十五 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ズ〇七十六 法律

規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用キタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セザル
現行ノ法令ハ總テノ効力ヲ有ス 歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ
契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

○教育ニ關スル勅語 明治廿三年十月三十日發布

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナ
リ我カ臣民克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我
カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス爾臣民父母ニ孝ニ兄
弟ニ友ニ夫婦相和シ朋友相信シ恭儉己レヲ持シ博愛衆ニ及ホシ學ヲ
修メ業ヲ習ヒ以テ智能ヲ啓發シ德器ヲ成就シ進テ公益ヲ廣メ世務ヲ
開キ常ニ國憲ヲ重シ國法ニ遵ヒ一旦緩急アレハ義勇公ニ奉シ以テ天
壤無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ是ノ如キハ獨リ朕カ忠良ノ臣民タルノミ

ナラス又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顯彰スルニ足ラン斯ノ道ハ實ニ我カ皇
祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ俱ニ遵守スヘキ所之ヲ古今ニ通シテ
謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス朕爾臣民ト俱ニ拳々服膺シテ咸其德
ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

○徵兵ノ詔書 明治五年十一月二十八日發布

朕惟フニ古昔郡縣ノ制全國ノ兵壯ヲ募リ軍團ヲ設ケ以テ國家ヲ保護
ス固ヨリ兵農ノ分ナシ中世以降兵權武門ニ歸シ兵農始メテ分レ遂ニ
封建ノ治ヲ成ス戊辰ノ一新ハ實ニ千有餘年來ノ一大變革ナリ此際ニ
當リ海陸兵制モ亦時ニ從ヒ宜ヲ制セサルベカラス今本邦古昔ノ制ニ
基キ海外諸國ノ式ヲ斟酌シ全國募兵ノ法ヲ設ケ國家保護ノ基ヲ立ン
ト欲ス汝百官有司厚ク朕ガ意ヲ體シ普ク之ヲ全國ニ告諭セヨ

○徵兵告諭

全年全月太政官發布

我朝上古ノ制海内舉テ兵ナラサルハナシ有事ノ日天子之カ元帥トナ
 リ丁壯兵役ニ堪ユル者ヲ募リ以テ不服ヲ征ス役ヲ解キ家ニ歸レバ農
 タリ工タリ商賈タル固ヨリ後世ノ雙刀ヲ帶ビ武士ト稱シ抗顔坐食シ
 甚シキニ至テハ人ヲ殺シ官其罪ヲ問ハザル者ノ如キニ非ズ抑神武天
 皇珍彥ヲ以テ葛城ノ國造トナセシヨリ爾來軍團ヲ設ケ衛士防人ノ制
 ヲ定メ神龜天平ノ際ニ至リ六府二鎮ノ設ケ始テ備ル保元平治以後朝
 綱頽弛兵權終ニ武門ノ手ニ墜チ國ハ封建ノ勢ヲナシ人ハ兵農ノ別ヲ
 爲ス降テ後世ニ至リ名分全ク泯没シ其弊勝テ云フ可カラズ然ルニ大
 政維新列藩版圖ヲ奉還シ辛未ノ歲ニ及ビ遠ク郡縣ノ古ニ復ス世襲坐
 食ノ士ハ其祿ヲ減シ刀劔ヲ脱スルヲ許シ四民漸ク自由ノ權ヲ得セシ

メントス是レ上下ヲ平均シ人權ヲ齊一ニスル道ニシテ則チ兵農ヲ合
 一ニスル基ナリ是ニ於テ士ハ従前ノ士ニ非ズ民ハ従前ノ民ニアラス
 均シク皇國一般ノ民ニシテ國ニ報スルノ道モ固ヨリ其別ナカルヘシ
 凡ソ天地ノ間一事一物トシテ稅アラサルハナシ以テ國用ニ充ツ然ラ
 ハ則チ人タルモノ固ヨリ心力ヲ盡シ國ニ報ゼサルヘカラス西人之ヲ
 稱シテ血稅ト云フ其生血ヲ以テ國ニ報スルノ謂ナリ且ツ國家ニ災害
 アレハ人々其災害ノ一分ヲ受ケザルヲ得ス是故ニ人々心力ヲ盡シ國
 家ノ災害ヲ防グハ則チ自己ノ災害ヲ防グノ基タルヲ知ルベシ苟モ國
 アレバ則チ兵備アリ兵備アレハ則チ人々其役ニ就カザルヲ得ズ是ニ
 由テ之ヲ觀レバ民兵ノ法タル固ヨリ天然ノ理ニシテ偶然作意ノ法ニ
 非ズ然而シテ其制ノ如キハ古今ヲ斟酌シ時ト宜ヲ制セザルベカラス

徵兵令

四七

西洋諸國數百年來研窮實踐以テ兵制ヲ定ム故ヲ以テ其法極メテ精密ナリ然レトモ政體地理ノ異ナル悉ク之ヲ用フ可カラズ故ニ今其長スル所ヲ取り古昔ノ軍制ヲ補ヒ陸海二軍ヲ備ヘ全國四民男兒二十歳ニ至ル者ハ盡ク兵籍ニ編入シ以テ緩急ノ用ニ備フベシ郷長里正厚ク此御趣意ヲ奉ジ徵兵令ニ依リ民庶ヲ説諭シ國家保護ノ大本ヲ知ラシムヘキ也

徵兵令緒言

兵ヲ徵スルノ方法ハ國家ノ大典忽ニスベカラザル者ニシテ又之ヲ實踐ニ行フノ難キ固ヨリ言フヲ俟タズ其法タル古今其制ヲ異ニシ各國其趣キヲ同フゼスト雖要スルニ一ニ民兵ニ因ラザル者ナシ所謂民兵ニ二種アリ曰ク壯兵曰ク賦兵是ナリ賦兵ナル者ハ全國ノ丁壯ヲシ

テ兵服ヲ帶ハシメ陸軍ノ兵員ヲ充タシ其内沿海ノ住民舟楫波濤ニ慣レシ者ヲ以テ海軍ノ兵員ニ充ツ而壯兵ハ自兵役ヲ望ミ出テシ者ニシテ服役數年ヲ帶ビ普ク武技ニ熟練シ一團精兵トナリ頗其便益ヲ得ル者ナリ然レトモ後日ニ至リ或ハ弊害ヲ生スル無キ能ハズ是故ニ壯兵ノ法ヲ廢シ賦兵一般ノ制度ヲ建テント欲ス竊ニ各國賦兵ノ制ヲ考フルニ大率服役八年乃至二十年ヲ以テ程度トス今國朝實ニ始メテ賦兵ノ大典ヲ起サントスルニ方リ兵役ノ久シキ恐ラクハ人民生活ノ業ヲ妨害シ且當今ノ國力ニ於テモ關係無シト謂フベカラズ是ニ於テ斟酌其宜ヲ採リ折衷其要ヲ拔キ現今實際ニ行フノ法ヲ定メ題シテ徵兵令ト云フ

○徵兵令

徵兵令

第一章 總則

一 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ義務アルモノトス〇二 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及國民兵役トス〇三 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス 現役陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年海軍ハ三箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス〇四 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス〇五 國民兵役ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及後備兵役ニ在ラサル者之ニ服ス〇六 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延ス可シ〇七 重罪ノ刑ニ處セラレ

タル者ハ兵役ニ服スルヲ許サズ

第二章 服役

八 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ歩兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ヲ充ツ 海軍現兵ハ毎年所要ノ人員ニ應シ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ 但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニ在ラズ 警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但在營期限ハ一箇年以内トス〇九 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因テ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ〇十 二十歳ニ

至ラズト雖滿十七歲以上ノ者ハ志願ニ依リ現役ニ服スルコトヲ得○十
 一 滿十七歲以上滿二十六歲以下ニシテ官立學校（小學科及撰科等
 ノ別科ヲ除ク）府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校
 ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タ
 ル學則ニ依リ法律學政治學理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ
 所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ
 費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但
 費用ノ全額ヲ自辨シ能ハサルノ證アル者ニハ其幾部ヲ官給スルコト
 アル可シ前項ノ一年志願兵ハ特別ノ教育ヲ授ケ現役滿期ノ後二箇年
 間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム 滿十七歲以上滿二十六歲以
 下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ

教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官
 給トス 前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直チニ國民兵役ニ服セシム第三
 項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歲迄ニ其教職ヲ罷ム
 ル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ常例ノ兵役ニ服セシム但第一項ニ
 依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス○十二 禁錮ノ刑ニ處
 セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タル
 コトヲ許サズ○十三 現役中殊ニ勤務ニ熟シ品行方正ナル者ハ歸休
 ヲ命スルコトアル可シ○十四 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ
 召集ス平常ニ在テハ毎年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ
 又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス○十五 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ
 豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平常ニ在テ勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト

豫備兵ニ同シ〇十六 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫

十七 兵役ヲ免スルハ癡疾又ハ不具ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル〇十八 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ仍ホ徵集ニ適セザル者ハ國民兵役ニ服セシム 第一體格完全且強壯ナルモ身幹未タ定尺ニ滿タザル者 第二疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘザル者〇十九 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス〇二十 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサルノ確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサル者國民兵役ニ服セシム

但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハザル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可セズ〇二十一 第十一條第一項ニ掲クル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十六歲迄ニ止ミ又ハ二十六歲ヲ過クルモ猶ホ止マザル者ハ抽籤ノ法ニ依ラズシテ之ヲ徵集ス但第十一條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十一條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニ在ラズ 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス二十六歲迄ニ歸朝シ又ハ二十六歲ヲ過キ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラズシテ之ヲ徵集ス但陸軍試験委員ノ試験ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得〇廿二 餘人ヲ以テ代フ可カラザル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及收入役ハ豫備兵ニ在

ト後備兵ニ在トヲ問ハズ勤務演習簡點呼ノ爲メ召集スルコトナシ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同ジ

第四章 豫備徴員

廿三 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ毎年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間(十二月一日ヨリ起算ニ)豫備徴員トシ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年徴集ノ兵員缺クルトキ之ヲ徴集ス○二十四 豫備徴員ニシテ其期限内ニ徴集セザル者ハ國民兵ニ服セシム

第五章 雜則

廿五 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿廿歳ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月卅一日迄ニ書面ヲ以テ(戶主ニ非ザルハ其戶主ヨリ)本籍ノ市町村長ニ届出可シ但廿歳未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ

者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハズ○廿六 徴集ハ本籍所住ノ徴募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徴募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徴集ニ應スルコトヲ得○二十七 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徴集ス○二十八 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケザル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徴集ス○二十九 現役年期ノ計算ハ總テ其入營スル年ノ十二月一日(第十一條第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年期ノ計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算ス)ヨリ起算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スル年ノ十二月一日ヨリ起算ス第六條ニ依リ延期シタル者モ其起算法亦同シ但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付

セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セズ

第六章 罰則

三十 第二十五條ノ届出ヲ爲サル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス○三十一 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一年以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七章 附則

三十二 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年ニ限り三月一日ヨリ同月十五日迄トス○三十三

本令ハ北海道ニ於テ函館江差福山ヲ除クノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ニハ當分之ヲ施行セズ○三十四 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノトス○三十五 舊令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服シタル者ハ本令第十一條ニ照シ二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシメ其豫備役二箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備役ニ服セシメ通シテ七箇年トス○三十六 舊令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マサルハ國民兵役ニ服セシム○三十七 舊令第十八條第二項ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ仍ホ止マザルハ國民兵役ニ服セシム○三十八 舊令第十八條第七項及第二十一條ニ依リ徵集猶豫ニシタル者ハ徵集ヲ延期シ其

事故七箇年ヲ過グルモ仍ホ止マサル并ハ國民兵役ニ服セシム〇三十
九 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ仍ホ在校
ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳ヲ過クルモ仍ホ止マラサル
トキハ國民兵役ニ服セシム〇四十 第三十六條第三十七條第三十八
條及第三十九條ニ掲クル者ハ其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルト
キハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得〇四十
一 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校
ノ者ハ其事故六箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ六箇年ヲ過グルモ尙ホ
止マザルトキハ抽籤法ニ依リ徵集ス但シ一年志願兵ヲ志願スルコト
ヲ得〇四十二 舊令第二十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備
徵員ト爲シ一箇年間(明治二十一年十二月一日ヨリ起算ス)ニ徵集セ

六〇

ザル者ハ國民兵役ニ服セシム〇四十三 舊令三十一條ニ依リ第一豫
備徵員ト爲リ在校セザル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備員トナ
リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員ト爲リ
タル者亦同シ〇四十四 明治十二年第四十六號布告徵兵令ニ依リ國
民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民
兵役ニ服セシム〇四十五 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ
服役期限ハ同令第三條及第四條ニ依ル〇四十六 第三十六條第三十
七條第三十八條ニ掲クル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲
クル徵集猶豫ノ者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以
内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ第十一條第三項又ハ第四項ニ依リ服
役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其敎職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍

徵兵令

六一

ノ市町村長ニ届出可シ第一項及第二項ノ届出ヲ爲サ、ル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サズシテ本令施行後ニ於テ發覺スル者ハ本令第三十條ニ依リ處分ス可シ



○日本軍備一覽

- 徴兵 帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ兵役ニ服スル義務アリ兵役ヲ常備後備國民ノ三種ニ分チ又常備兵役ヲ分テ現役後備役トス又北海道ニハ屯田兵ノ制アリ
- 現役兵 滿二十歳ニ至リタルモノハ、身體ヲ検査シ合格ノモノハ猶抽籤ヲ以テ現役ニ服セシム陸軍ハ三年海軍ハ四年トス
- 後備兵 現役ヲ終リタルモノ之ニ服ス陸軍ハ四年海軍ハ三年ナリ
- 豫備兵 五年ニシテ常備兵役七年ヲ終リタルモノ之ニ服ス

- 國民兵 常備役後備役ニ非ラザルモノニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノモノ之ニ服ス
- 兵種 陸軍ハ歩兵騎兵砲兵工兵輜重兵職工及雜卒トシ又外ニ憲兵軍樂隊アリ海軍ハ水兵火夫職工及雜卒ニ區別ス
- 志願兵 滿十七歳以上滿二十歳以下ニシテ徵兵令ニ定メタル學校ヲ卒業シ服役中費用ヲ自辨スルモノハ一年間又官府縣立師範學校ノ卒業者ハ六月間現役ニ服スルヲ得ルモノナリ
- 召集 戰時若クハ事變ニ際スレバ第一ニ豫備ヲ召集シ次ニ後備ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキハ國民兵ヲ召集ス又時トシテハ後備ヲ第一ニ召集スルコトアリ
- 軍管 陸軍ハ全國ヲ分チテ近衛及ヒ六師團トシ六師管區ニ分テリ海軍ハ全國沿海ヲ五海軍區トセリ

陸軍		師團	
第一旅團	第一師團	第一旅團	第一師團
第二旅團	第二師團	第二旅團	第二師團
第三旅團	第三師團	第三旅團	第三師團
第四旅團	第四師團	第四旅團	第四師團
第五旅團	第五師團	第五旅團	第五師團
第六旅團	第六師團	第六旅團	第六師團
第七旅團	第七師團	第七旅團	第七師團
第八旅團	第八師團	第八旅團	第八師團
第九旅團	第九師團	第九旅團	第九師團
第十旅團	第十師團	第十旅團	第十師團
第十一旅團	第十一師團	第十一旅團	第十一師團
第十二旅團	第十二師團	第十二旅團	第十二師團
第十三旅團	第十三師團	第十三旅團	第十三師團
第十四旅團	第十四師團	第十四旅團	第十四師團
第十五旅團	第十五師團	第十五旅團	第十五師團
第十六旅團	第十六師團	第十六旅團	第十六師團
第十七旅團	第十七師團	第十七旅團	第十七師團
第十八旅團	第十八師團	第十八旅團	第十八師團
第十九旅團	第十九師團	第十九旅團	第十九師團
第二十旅團	第二十師團	第二十旅團	第二十師團
第二十一旅團	第二十一師團	第二十一旅團	第二十一師團
第二十二旅團	第二十二師團	第二十二旅團	第二十二師團
第二十三旅團	第二十三師團	第二十三旅團	第二十三師團
第二十四旅團	第二十四師團	第二十四旅團	第二十四師團
第二十五旅團	第二十五師團	第二十五旅團	第二十五師團
第二十六旅團	第二十六師團	第二十六旅團	第二十六師團
第二十七旅團	第二十七師團	第二十七旅團	第二十七師團
第二十八旅團	第二十八師團	第二十八旅團	第二十八師團
第二十九旅團	第二十九師團	第二十九旅團	第二十九師團
第三十旅團	第三十師團	第三十旅團	第三十師團
第三十一旅團	第三十一師團	第三十一旅團	第三十一師團
第三十二旅團	第三十二師團	第三十二旅團	第三十二師團
第三十三旅團	第三十三師團	第三十三旅團	第三十三師團
第三十四旅團	第三十四師團	第三十四旅團	第三十四師團
第三十五旅團	第三十五師團	第三十五旅團	第三十五師團
第三十六旅團	第三十六師團	第三十六旅團	第三十六師團
第三十七旅團	第三十七師團	第三十七旅團	第三十七師團
第三十八旅團	第三十八師團	第三十八旅團	第三十八師團
第三十九旅團	第三十九師團	第三十九旅團	第三十九師團
第四十旅團	第四十師團	第四十旅團	第四十師團
第四十一旅團	第四十一師團	第四十一旅團	第四十一師團
第四十二旅團	第四十二師團	第四十二旅團	第四十二師團
第四十三旅團	第四十三師團	第四十三旅團	第四十三師團
第四十四旅團	第四十四師團	第四十四旅團	第四十四師團
第四十五旅團	第四十五師團	第四十五旅團	第四十五師團
第四十六旅團	第四十六師團	第四十六旅團	第四十六師團
第四十七旅團	第四十七師團	第四十七旅團	第四十七師團
第四十八旅團	第四十八師團	第四十八旅團	第四十八師團
第四十九旅團	第四十九師團	第四十九旅團	第四十九師團
第五十旅團	第五十師團	第五十旅團	第五十師團
第五十一旅團	第五十一師團	第五十一旅團	第五十一師團
第五十二旅團	第五十二師團	第五十二旅團	第五十二師團
第五十三旅團	第五十三師團	第五十三旅團	第五十三師團
第五十四旅團	第五十四師團	第五十四旅團	第五十四師團
第五十五旅團	第五十五師團	第五十五旅團	第五十五師團
第五十六旅團	第五十六師團	第五十六旅團	第五十六師團
第五十七旅團	第五十七師團	第五十七旅團	第五十七師團
第五十八旅團	第五十八師團	第五十八旅團	第五十八師團
第五十九旅團	第五十九師團	第五十九旅團	第五十九師團
第六十旅團	第六十師團	第六十旅團	第六十師團
第六十一旅團	第六十一師團	第六十一旅團	第六十一師團
第六十二旅團	第六十二師團	第六十二旅團	第六十二師團
第六十三旅團	第六十三師團	第六十三旅團	第六十三師團
第六十四旅團	第六十四師團	第六十四旅團	第六十四師團
第六十五旅團	第六十五師團	第六十五旅團	第六十五師團
第六十六旅團	第六十六師團	第六十六旅團	第六十六師團
第六十七旅團	第六十七師團	第六十七旅團	第六十七師團
第六十八旅團	第六十八師團	第六十八旅團	第六十八師團
第六十九旅團	第六十九師團	第六十九旅團	第六十九師團
第七十旅團	第七十師團	第七十旅團	第七十師團
第七十一旅團	第七十一師團	第七十一旅團	第七十一師團
第七十二旅團	第七十二師團	第七十二旅團	第七十二師團
第七十三旅團	第七十三師團	第七十三旅團	第七十三師團
第七十四旅團	第七十四師團	第七十四旅團	第七十四師團
第七十五旅團	第七十五師團	第七十五旅團	第七十五師團
第七十六旅團	第七十六師團	第七十六旅團	第七十六師團
第七十七旅團	第七十七師團	第七十七旅團	第七十七師團
第七十八旅團	第七十八師團	第七十八旅團	第七十八師團
第七十九旅團	第七十九師團	第七十九旅團	第七十九師團
第八十旅團	第八十師團	第八十旅團	第八十師團
第八十一旅團	第八十一師團	第八十一旅團	第八十一師團
第八十二旅團	第八十二師團	第八十二旅團	第八十二師團
第八十三旅團	第八十三師團	第八十三旅團	第八十三師團
第八十四旅團	第八十四師團	第八十四旅團	第八十四師團
第八十五旅團	第八十五師團	第八十五旅團	第八十五師團
第八十六旅團	第八十六師團	第八十六旅團	第八十六師團
第八十七旅團	第八十七師團	第八十七旅團	第八十七師團
第八十八旅團	第八十八師團	第八十八旅團	第八十八師團
第八十九旅團	第八十九師團	第八十九旅團	第八十九師團
第九十旅團	第九十師團	第九十旅團	第九十師團
第九十一旅團	第九十一師團	第九十一旅團	第九十一師團
第九十二旅團	第九十二師團	第九十二旅團	第九十二師團
第九十三旅團	第九十三師團	第九十三旅團	第九十三師團
第九十四旅團	第九十四師團	第九十四旅團	第九十四師團
第九十五旅團	第九十五師團	第九十五旅團	第九十五師團
第九十六旅團	第九十六師團	第九十六旅團	第九十六師團
第九十七旅團	第九十七師團	第九十七旅團	第九十七師團
第九十八旅團	第九十八師團	第九十八旅團	第九十八師團
第九十九旅團	第九十九師團	第九十九旅團	第九十九師團
第一百旅團	第一百師團	第一百旅團	第一百師團

軍備

軍備	殿	松島	橋立	扶桑	浪速	高千穂	千代田	金剛	比叡	筑波	八重山	天龍	葛城	武藏
	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少	少
尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉
少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉	少尉
監	監	監	監	監	監	監	監	監	監	監	監	監	監	監
少監	少監	少監	少監	少監	少監	少監	少監	少監	少監	少監	少監	少監	少監	少監
醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫	醫
少醫	少醫	少醫	少醫	少醫	少醫	少醫	少醫	少醫	少醫	少醫	少醫	少醫	少醫	少醫
主計	主計	主計	主計	主計	主計	主計	主計	主計	主計	主計	主計	主計	主計	主計
少主計	少主計	少主計	少主計	少主計	少主計	少主計	少主計	少主計	少主計	少主計	少主計	少主計	少主計	少主計
上等兵	上等兵	上等兵	上等兵	上等兵	上等兵	上等兵	上等兵	上等兵	上等兵	上等兵	上等兵	上等兵	上等兵	上等兵
樂師	樂師	樂師	樂師	樂師	樂師	樂師	樂師	樂師	樂師	樂師	樂師	樂師	樂師	樂師
機關師	機關師	機關師	機關師	機關師	機關師	機關師	機關師	機關師	機關師	機關師	機關師	機關師	機關師	機關師
船匠	船匠	船匠	船匠	船匠	船匠	船匠	船匠	船匠	船匠	船匠	船匠	船匠	船匠	船匠
士下等一	士下等一	士下等一	士下等一	士下等一	士下等一	士下等一	士下等一	士下等一	士下等一	士下等一	士下等一	士下等一	士下等一	士下等一
士下等二	士下等二	士下等二	士下等二	士下等二	士下等二	士下等二	士下等二	士下等二	士下等二	士下等二	士下等二	士下等二	士下等二	士下等二
士下等三	士下等三	士下等三	士下等三	士下等三	士下等三	士下等三	士下等三	士下等三	士下等三	士下等三	士下等三	士下等三	士下等三	士下等三
卒等一	卒等一	卒等一	卒等一	卒等一	卒等一	卒等一	卒等一	卒等一	卒等一	卒等一	卒等一	卒等一	卒等一	卒等一
卒等二	卒等二	卒等二	卒等二	卒等二	卒等二	卒等二	卒等二	卒等二	卒等二	卒等二	卒等二	卒等二	卒等二	卒等二
卒等三	卒等三	卒等三	卒等三	卒等三	卒等三	卒等三	卒等三	卒等三	卒等三	卒等三	卒等三	卒等三	卒等三	卒等三
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計

六九

軍艦團隊定員表

總計	員 團 戰 非															
	合	鍛	木	蹄	鞍	靴	縫	銃	監	書	軍	看	看	獸	軍	軍
計	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工	工
一七三〇	六六							二二六		四三	二二	三三		五一		
五一四	二九											一一三	一一二	二二		
七三七	四四	二二	二二	二二	二二	六〇	一		一四	三六	一一	二二	三三			
一六九八	六三	二二					一一	二二	一一	三三	二二	三三	二二	一一		
四一〇	二四	一一														
六四〇	二五							三五七		一一	二二	一一	二二			

六八

工 兵 隊	砲 兵 隊	騎 兵 隊	兵		
			第四大隊	第三大隊	第二大隊
空知沼	空知沼	空知沼	厚岸根	上川永	空知瀧
具	具	具	室	一	川
全	全	現役	豫備	現役	豫備
		三分ノ二	四分ノ二	二	二
上	上	隊	中隊	中隊	中隊
全	全	現役	豫備	現役	豫備
		三分ノ一	四分ノ三	二	二
上	上	隊	中隊	中隊	中隊

七四

○清國兵制一斑

陸軍ヲ八旗兵綠兵鄉勇兵ノ三ニ大別ス

八旗兵

八旗兵ニ滿州蒙古漢軍ノ別アリ此ノ數總テ二十餘萬人京師ニ在ルヲ禁旗八旗ト云ヒ各省ニ在ルヲ駐防八旗ト云フ

八旗兵定員ハ舊法八人總都統十六人參領總管十八人佐領二百九人兵士六萬九千餘人

綠營

八旗外ノ漢人ヲ招募シテ編制セルモノナリ此ノ數總テ四十餘萬人アリト云フ綠兵ハ一ニ綠旗兵ト云フ各省ノ總督巡撫提督等ノ管理スル所ナリ其ノ所管ニ因リテ名稱アリ左ノ如シ

- 總督麾下ノ兵ヲ督標ト云フ三營ニ分ツ
- 巡撫麾下ノ兵ヲ撫標ト云フ二營ニ分ツ
- 將軍麾下ノ兵ヲ軍標ト云フ四營ニ分ツ
- 提督麾下ノ兵ヲ提標ト云フ五營ニ分ツ
- 總兵麾下ノ兵ヲ鎮標ト云フ五營ニ分ツ
- 副將麾下ノ兵ヲ協標ト云フ二營ニ分ツ

(合計 六百五十一人)

營官	哨官	哨長	什長	正勇	伙夫	長夫
一	五	五	四〇	四五〇	四六	一〇四

清國兵制一斑

七五

康威 鐵骨木皮
濟安 鐵骨木皮

一一三
二五〇〇
八〇〇全

十五年
九年

登瀛州
鎮海州
全木

七八
一二五八
九五〇全
五年

南洋艦隊

寶鏡 鋼骨木皮
南南 鋼骨木皮
鏡泰 鋼骨木皮
探端 鋼骨木皮

二二七
二〇〇〇
〇〇〇〇
〇〇〇〇
全全全

明治十九年
十六年

開保 鐵骨木皮
濟民 鐵骨木皮
海民 鐵骨木皮

一二二
七〇七〇
〇〇七〇
全全全

廿一年
十七年

福建艦隊

元探 鋼骨木皮
凱航 鋼骨木皮

一一四
二五〇
八〇〇全

明治六年
八年

福州 鋼骨木皮
超武 鋼骨木皮

一一〇
二〇〇
九〇〇全

十一年
十年

薩摩艦

艦名	艦質	噸	數	製造年月	艦名	艦質	噸	數	製造年月
海鏡	木皮	一四〇	五	明治六年	廣海	木皮	七〇〇	七	廿三年
廣丙	鋼骨木皮	八〇〇	〇	廿四年	廣廣	鐵骨木皮	六〇〇	〇	廿三年
遂洲	鐵骨木皮	八〇〇	〇	廿四年	廣廣	鐵骨木皮	六〇〇	〇	廿三年

右ノ外北洋艦隊ニハ經遠(一九〇〇噸)致遠(二三〇〇噸)超勇(一三五〇噸)揚威(一三五〇)操江(九五〇噸)廣東艦隊ニハ廣甲(二九六)廣乙(二〇〇〇)ノ七隻アリシカ豊島及海洋島ノ戦ニ於テ失ハル

○徵發令

明治十五年八月發令

一 徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ課賦シテ徵發スルノ法トス但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ準ズ〇二 徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ〇三 左ニ列記スル官憲ハ

徵發令

徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス 一、陸軍卿、海軍卿、鎮臺司令官、及ヒ鎮守府長官、二、陸軍ニ於テハ特命司令官、軍團長、師團長、旅團長、分遣隊長、若クハ演習、及ヒ行軍ノ軍隊長、三、海軍ニ於テハ特命司令官、艦隊司令長官、艦隊司令官、分遣艦長、若クハ操練、及ヒ航海ノ艦隊司令官、又ハ艦長〇四 徵發スベキモノ、種類ニ依リ徵發區ヲ定ムルコト左ノ如シ 一、第十二條第一項ハ府縣、二、第十二條第二項及第三項ハ郡區、三、第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ町村、四、船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ汽車ハ會社〇五 徵發スベキモノハ徵發區内ニ現在スルモノニ限ル〇六 徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ〇七 徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長若クハ停車場

場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ責アルモノトス〇八 各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應スベキ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス〇九 徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ違フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其ノ時期ニ違フトキハ府知事縣令郡區長戶長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヲシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ〇十 徵發ヲ課セラレタルモノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給スベキモノヲ藏匿シタルトキハ之ヲ使用スルコトヲ得〇十一 供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スベシ〇十二 徵發スベキモノ左ノ如シ 一、米、麥、秣、鹽、味噌、醬油、漬

物、梅干、及ヒ薪炭、 二、乘馬、駄馬、駕馬、車輛其他運搬ニ供スル獸類及器具、 三、人夫、 四、宿舍、厩園及倉庫、 五、飲水、石炭、 六、船舶、 七、鐵道、汽車、 八、演習ニ要スル地所、 九、演習ニ要スル材料器具、○十三 戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ掲クルモノ、外徵發スベキモノ左ノ如シ但平時ノ演習等ハ徵發スルコトヲ得ズ 一、造船所、工作所、及軍事ノ工作ニ要スル材料器具、 二、職工、鑛夫、洗濯人ノ類、 三、被服、裝具、草鞋、兵器、彈藥、船具、寢具、藥劑、治療器械及綑帶具、 四、水車搗舂ノ類、 五、病院、○(十四條ヨリ二十八條マテ畧ス) ○二十九 徵發ニ係ルモノハ第三十一條乃至五十條ニ定ムル方法ニ從ヒ賠償ス○三十 徵發物件ヲ差出場所ニ輸出スルハ徵發區ノ義務トシ其輸送費ヲ支辨セズ○三十一 賠

償ハ平時ト戰時トヲ論セズ其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滞ノ三ヶ月ヲ越ユルキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス○(三十二條ヨリ五十條マデハ賠償ノ細則アリ略之) ○五十一 徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ビ之ヲ教唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス○五十二 徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長其ノ處置ヲナサルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其懈怠ニ出ルモノハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス○五十三 徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セザル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處

シ將校ハ剝官ヲ附加ス

○戒嚴令 明治十五年八月發布

一 戒嚴令ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵備ヲ以テ全國若クハ一地方ヲ警戒スルノ法トス○二 戒嚴ハ臨戰地境ト合圍地境トノ二種ニ分ツ 第一、臨戰地境ハ戰時若クハ事變ニ際シ警戒ス可キ地方ヲ區劃シテ臨戰ノ區域トナス者ナリ 第二、合圍地境ハ敵ノ合圍若クハ攻撃其他ノ事變ニ際シ警戒スベキ地方ヲ區畫シテ合圍ノ區域ト爲ス者ナリ○三 戒嚴ハ臨機ニ應シ其要スベキ地境ヲ區畫シテ之ヲ布告ス○四 戰時ニ際シ鎮臺營所要塞海軍港鎮守府海軍造船所等遽カニ合圍若クハ攻撃ヲ受ル時ハ其地ノ司令官臨時戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得又戰略上臨機ノ處分ヲ要スルトキハ出征ノ司令官之ヲ宣告スルコトヲ得

○五 平時土寇ヲ鎮定スル爲メ臨時戒嚴ヲ要スル場合ニ於テハ其地ノ司令官速カニ上奏シテ命ヲ請フ可シ若シ時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ道ナキ時ハ直ニ戒嚴ヲ宣告スルコトヲ得○六 軍團長師團長旅團長鎮臺營所要塞司令官警備隊司令官若クハ分遣隊長或ハ艦隊司令官艦隊司令官鎮守府長官若クハ特命司令官ハ戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官トス(十九年勅令七十四號ヲ以テ警備隊司令官若クハ分遣隊長ノ十三字ヲ加フ)○七 戒嚴ノ宣告ヲ爲シタル時ハ直チニ其狀勢及事由ヲ具シテ太政官ニ上申ス可シ 但其ノ隸營スル所ノ長官ニハ別ニ之ヲ具申ス可シ○八 戒嚴ノ宣告ハ屢ニ布告シタル所ノ臨戰若クハ合圍地境ノ區畫ヲ改定スルコトヲ得○九 臨戰地境內ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ノ軍事ニ關係アル事件ヲ限リ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委ヌル者トス故

ニ地方官地方裁判官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フベシ〇十 合圍地境ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ其地ノ司令官ニ管掌ノ權ヲ委スル者トス故ニ地方官地方裁判官及檢察官ハ其戒嚴ノ布告若クハ宣告アル時ハ速カニ該司令官ニ就テ其指揮ヲ請フベシ〇十一 合圍地境內ニ於テハ軍事ニ係ル民事及ヒ左ニ開列スル犯罪ニ係ル者ハ總テ軍衛ニ於テ裁判ス 皇室ニ對スル、國事ニ關スル、靜謐ヲ害スル、信用ヲ害スル、官吏瀆職ノ罪及ビ謀殺故殺、毆打創傷、擅ニ人ヲ逮捕監禁スル、脅迫ノ罪 強盜、放火、失火、決水、船舶ヲ覆没スル、家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スルノ罪(刑法第二編第三編ノ内ニ)〇十二 合圍地境內ニ裁判所ナク又管轄裁判所ト通路斷絶セシトキハ民事刑事ノ別ナク總テ軍衛ノ裁

判ニ屬ス〇十三 合圍地境內ニ於ケル軍衛ノ裁判ニ對シテハ控訴上告ヲナスコトヲ得ズ〇十四 戒嚴地境內ニ於テハ司令官左ニ記列ノ諸件ヲ執行スルノ權ヲ有ス但其執行ヨリ生ズル損害ハ要償スルコトヲ得ズ 第一、集會若クハ新聞雜誌廣告等ノ時勢ニ妨害アリト認ムルモノヲ停止スルコト 第二、軍需ニ供ス可キ民有ノ諸物品ヲ調査シ又ハ時機ニヨリ其輸出ヲ禁止スルコト、 第三、銃砲彈藥兵器火具其他危險ニ涉ル諸物品ヲ所有スル者アル時ハ之ヲ検査シ時機ニヨリ押收スルコト 第四、郵便電報ヲ開緘シ出入ノ船舶及ヒ諸物器ヲ検査シ並ニ陸海通路ヲ停止スルコト 第五、戰狀ニ依リ止ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ人民ノ動産不動産ヲ破壞燬燒スルコト 第六、合圍地境ニ於テハ晝夜ノ別ナク人民ノ家屋建造物船舶中ニ立入り檢察

スルコト 第七、合圍地境内ニ寄宿スル者アルトキハ時機ニヨリ其地ヲ退去セシムルコト〇十五 戒嚴ハ平定ノ後ト雖モ解止ノ布告若クハ宣告ヲ受クル日迄ハ其効力ヲ有スルモノトス〇十六 戒嚴解止ノ日ヨリ地方行政司法事務及ヒ裁判權ハ總テ常例ニ復ス、

○法律規則中戰時ト稱スル場合 明治十五年八月發布

○法律規則中戰時ト稱スルハ外患又ハ内亂アルニ際シ布告ヲ以テ定ムルモノトス

○條約締盟國

條約國名	調印年	公使館
大不列顛	安政二年	東京麴町區五番町
佛蘭西	安政二年	全永田町一丁目
獨逸	安政二年	全永田町一丁目
露西亞	安政二年	全上二番町
暹羅	安政二年	全上二番町
澳洲	安政二年	全上二番町
地西利	安政二年	全上二番町

伊朝北和	米合衆	典、諸	瑞丁和	布威抹	白牙哇	西義牙	瑞羅四	暹羅	星暹
朝鮮國	安慶	安慶	安慶	安慶	安慶	安慶	安慶	安慶	安慶
應治	元二年	元二年	元二年	元二年	元二年	元二年	元二年	元二年	元二年
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
全三年	全六年	全六年	全六年	全六年	全六年	全六年	全六年	全六年	全六年

○日英改正條約

日英兩國間の現行條約は嘉永七年八月長崎奉行水野筑後守御徒目付永井岩之丞が英國水師提督ゼームスチリングの長崎に於て調印し締結したる約定及び慶應二年五月老中水野和泉守が英佛米蘭四國公使に江戸に於て締結したる改稅約書並に安政五年七月水野筑後守外五名が英國全權委員エルマン、キンカールゲンと江戸に於て締結したる修好通商條約なり而して改正條約は青木全權公使と英國外務大臣キンパーバー伯と

日英改正條約

の調印を終へ批准を経公布せられたるものなり

○日英通商航海條約

日本國皇帝陛下及大不列顛愛蘭聯合王國兼印度國皇帝陛下は兩國臣民の交際を皇張増進し以て幸に兩國間に存在する所の厚誼を維持せむことを欲し而して此の目的を達せむには從來兩國間に存在する所の條約を改正するに如かざるを確信し公正の主義と相互の利益を基礎とし其の改正を完了することに決定し之が爲めに日本國皇帝陛下は英國駐劄帝國特命全權公使從二位勳一等子爵青木周藏を、大不列顛愛蘭聯合王國兼印度國皇帝陛下は其の外務大臣ガーター勳章の「ナイト」、ゼー、ライト、オノレーブル、ジョン、キムパーレー伯爵を各其の全權委員に任命せり因て各全權委員は互に其の委任狀を示し

九〇

其の良好妥當なるを認め以て左の諸條を協議決定せり

○議定書

第一條

兩締盟國の一方の臣民は他の一方の版圖内何れの所に到り、旅行し或は住居するも全く隨意たるべく而して其の身體及財産に對しては完全なる保護を享受すべし
該臣民は其の權利を伸張し及防護せむが爲め自由に且容易に裁判所に訴出ることを得べく又該裁判所に於て其の權利を伸張し及防護するに付内國臣民と同様に代言人辯護人及代人を摺擇し且使用することを得べく而して右の外司法取扱に關する各般の事項に關して内國臣民の享有する總ての權利及特典を享有すべし
住居權、旅行權及各種財産の所有、遺囑又は其の他の方法に因る所の財産の相續並に合法に得る所の各種財産を如何に處分することに關し兩締盟國の一方の臣民は他の一方の版圖内に在りて内國若は最惠國の臣民或は人民と同様の特典、自由及權利を享有し且此等の事項に關しては内國若は最惠國の臣民或は人民に比して多額の税金若は賦課金を徴收せらるることなきべし
兩締盟國の一方の臣民は他の一方の版圖内に於て真心に關し完全なる自由、及法律、勅

日英改正條約

九一

令及規則に従て公私の禮拜を行ふの權利、並に其の宗教上の慣習に従ひ埋葬の爲め設置保存せらるる所の適當便宜の地に自國人を埋葬するの權利を享有すべし
何等の名義を以てするも該臣民をして内國若は最惠國の臣民或は人民の納むる所若は納むべき所に異なるか又は之より多額の取立金若は租税を納めしむるを得ず

第二條

兩締盟國の一方の臣民にして他の一方の版圖内に住居する者は陸軍、海軍、護國軍、民兵等に論なく總て強迫兵役を免がれ且其の服役の代りとして取立る所の一切の納金を免かれ又一切の強募公債及び軍事上の賦歛、或は捐資を免るべし

第三條

兩締盟國の間には相互に通商及航海の自由あるべし

兩締盟國の一方の臣民は他の一方の版圖内何れの所に於ても總て正業に關する各種の生産物製造品及貨物の卸賣若は小賣營業に従事するを得べし右營業に従事するに於て自身に之を爲し、或は代理人を以てし、又は一人にて之を爲し、或は外國人若は内國臣民と組合を結びて之を爲すも同意たるべく又必要なる家屋、製造所、倉庫、店舗及附屬構造物を所有し或は之を借受け又は使用し、且住居及商業の爲めに土地を借受くる

ことを得但し内國臣民と同様其の國の法律、警察規則及税關規則を遵守するを要す
該臣民は他の一方の版圖内の各地、諸港及諸河にして外國通商の爲め開かれ又は開かるべき場所へ船舶及貨物を以て自由に到るを得且通商及航海に關しては政府官吏公吏一私人或は會社若は何等施設の名義を以てするか又は其の利益の爲めに課せらるる所の税金或は取立金は其の性質若は名稱の如何を論ぜず内國臣民若は最惠國臣民或は人民の拂ふ所に異なるか或は之より多額のもの拂ふことなく内國臣民若は最惠國臣民或は人民と同一の取扱を受くべし但し常に各其の國の法律勅令及規則に従ふべきものとす

第四條

兩締盟國の一方の臣民が他の一方の版圖内に於て住居若は商業の爲めに供する家宅、製造所、倉庫、店舗及之に關する總ての附屬構造物は侵すべからず有家宅等へは猥に侵入搜索すべからず又帳簿、書類或は簿記帳を検査點閱すべからず但し内國臣民に對し法律、勅令及規則を以て制定せる條件及定式に據るべきは此の限に在らず

第五條

大不列顛國皇帝陛下の版圖内の生産或は製造に係る物品は何れの地より日本國皇帝陛下

下の版圖内に輸入し又日本國皇帝陛下の版圖内の生産或は製造に係る物品を何れの地より大不列顛國皇帝陛下の版圖内に輸入するにも總て別國の生産或は製造に係る同種の物品に課する所の税に異なるか或は之より多額の税を課せらるゝことなるべし又締盟國の一方の版圖内へ別國の生産或は製造に係る物品の輸入を禁止するに非ざれば他の一方の版圖内の生産或は製造に係る同種の物品を何れの地より輸入することをも禁止することなるべし但し此の末段の取極は人畜或は農業に有用なる植物の安全を保護するに必要なる衛生上及其の他の禁止には適用すべからざるものとす

第六條

兩締盟國の一方の版圖内より他の一方の版圖内へ輸出する一切の物品へは他の各外國へ輸出する同種物品に對して賦課し若は賦課すべき所に異なるか或は之より多額の税金又は雜費を賦課することなるべし又兩締盟國の一方の版圖内に於て他の各外國に向ひ物品の輸出を禁止するに非ざれば他の一方の版圖内へ同種の物品を輸出することをも禁止せざるべし

第七條

兩締盟國の一方の臣民は他の一方の版圖内に在りて總ての内通過税は免除せらるべし

又倉入、獎勵金、便益及税金拂戻等の事項に就ては全く内國臣民と同等の取扱を享くべし

第八條

日本國皇帝陛下の版圖内の諸港へ日本國の船舶を以て適法に輸入し若は輸入せらるべき總ての物品は亦大不列顛國の船舶を以て同様之を右諸港に輸入するとを得此場合に於ては日本國船舶が右様の物品を輸入するとき課すべき税金或は雜費の外何等の名義を以てするも更に別種或は多額の税金雜費等を課せざるべし又大不列顛國皇帝陛下の版圖内の諸港へ大不列顛國の船舶を以て適法に輸入し若は輸入せらるべき總ての物品は亦日本國の船舶を以て同様之を右諸港へ輸入することを得此の場合に於ては大不列顛國船舶が右様の物品を輸入するとき課すべき税金或は雜費の外何等の名義を以てするも更に別種或は多額の税金雜費等を課せざるべし右相互對等の取扱は右物品の直に原産地より到ると其の他の場所より到ることを問はず必ず之を施すものとす

輸出に關しても前項の場合と同様全く均等の取扱を施すべし故に締盟國の一方より適法に輸出し若は輸出せらるべき物品は其の輸出の日本國船舶に依ると大不列顛國船舶に依るとに拘はらず又其の仕向先の締盟國の一港たるも第三國の一港たることを問はず

日英改正條約

締盟國の版圖内に於ては之に課するに同一の輸出税を以てし又之に許すに同一の奨励金並に税金拂戻のこゝを以てすべし

第九條

政府、官吏、公吏、一私人、會社、若くは何等施設の名義を以てするか又は其の利益の爲めに課せらるる所の噸税、港税、水先案内料、燈臺税、檢疫費其の他之と同種の税金は其の性質並に名義の如何に拘はらず同一の條件を以て同様の場合に於て内國船舶一般若くは最惠國船舶に課するものに非ざれば兩締盟國の一方は其の版圖内の港に於て之を他の一方の船舶に課せざるべし此の如き均等の取扱は兩國の船舶が何れの地或は港より來り又何れの所に往くものたりとも相互同一たるべきものとす

第十條

兩締盟國の一方の版圖内の海港、海灣、船渠、川河或は其他の碇泊所に於て船舶の繫留又は貨物の船積、船卸に關する一切の事項に就ては内國船舶に許與せざる特典は均しく他の一方の締盟國の船舶にも許與せざるべし但し本件に關しても亦兩締盟國の目的は兩國の船舶に對し互に全く均等の取扱を施すに在るものとす

第十一條

兩締盟國の沿海貿易は本條約に於て規定するの限に在らず各其の法律、勅令及規則に従ひ之を規定すべきものとす然れども日本國皇帝陛下の版圖内に於ける大不列顛國臣民又は大不列顛國皇帝陛下の版圖内に於ける日本國臣民は此の事項に關しては各右法律勅令及規則を以て他の外國臣民或は人民に許與し若は許與せらるべき諸權利を享有すべきものとす

大不列顛國皇帝陛下の版圖内の二箇以上の港へ仕向けたる荷物を外國に於て積載したる日本國船舶及日本國皇帝陛下の版圖内の二箇以上の港へ仕向たる荷物を外國に於て積載したる大不列顛國船舶は外國貿易を許されたる仕向港の一に於て其の積荷の一部を陸揚し而して其の最初に積載したる荷物の剩餘を陸揚する爲め他の一港若は數港へ進航することを得べし但し常に兩國の法律及税關規則に従ふべきものとす

但し日本國政府は本條約の期限間迄の通り大不列顛國船舶が帝國の現開港場間に積荷を運搬することを許すことを承諾す尤大坂新潟及び夷港は此の限りに在らず

第十二條

兩締盟國の一方の軍艦或は商船にして暴風又は其の他の危難に遭遇し避難の爲め已むを得ず他の一方海港に進入するものは内國船舶の拂ふべき税金の外何等の税金を拂ふ

こまなく其の港に於て更に繕装を爲し一切の需用品を求め再び航行することを得べし但し商船の船長にして其の費用を支辨する爲め其の積荷の一部を賣却するを要する場合には該船長は其の寄港地の規則及税目を遵守すべきものとす

兩締盟國の一方の軍艦或は商船にして他の一方の沿岸に於て淺瀬に乗り上げ或は難破したるときは地方官より其の事件の生じたる地方に在る所の總領事、領事、副領事又は代辨領事へ其の旨を通知すべし但し若其の地方に領事官の駐在せざるときは最近地方の總領事、領事、副領事又は代辨領事へ通知すべし

日本國皇帝陛下の領海にて難破し若は海岸に乗り上げたる大不列顛國船舶の救助に關する一切の手續は日本國法律、勅令及規則に従て之を爲すべく又相互の主義に基き大不列顛國皇帝陛下の領海にて難破し若は海岸に乗り上げたる日本船舶に關する一切の救助の處分は大不列顛國法律、勅令及規則に従て之を爲すべし

右難破者は乗上げたる船舶並に其の器具及其他一切の附屬品及該船舶より救上げたる貨物並に商品及右等の諸物件にして海中に投棄せられたるもの又は之を賣却したるときは其の收得金並に該遭難船内に發見せられたる一切の書類は右船舶の持主或は代理人より要求するときは之に引渡すべし右持主或は代理人の現場に在らざるときは内國

法律に定めたる期限内に當該總領事、領事、副領事或は代辨領事より請求あれば之を引渡すべし而して右領事官、持主或は代理人は内國船舶難破の場合に於て拂ふべき所の物品保存費並に難破救助費及其他の費用のみを拂ふべきものとす

難破船より救上げたる貨物及商品は消費の爲めに通關手續を爲すものに非ざれば一切の關稅を免除すべし但し消費の爲めに賣捌く場合には普通の關稅を納むるを要するものとす

兩締盟國の一方の臣民に關する船舶にして他の一方の版圖内に於て淺瀬に乗り上げ或は難破したるとき其の持主、船長若は他の持主代理人不在の場合には當該總領事、領事、副領事、若は代辨領事は其の自國臣民に必要な補助を與ふる爲め職權上の助力を爲すを許さるべきものとす此の規定は持主、船長若は代理人現に其の場に在るときは雖も右様の補助を與ふるを請求する場合には亦適用すべきものとす

第十三條

本條約に於ては日本國の國法に従ひ日本國船舶と見做さるべき一切の船舶は之を日本國船舶と見認め又大不列顛國の國法に従ひ大不列顛國船舶と見做さるべき一切の船は之を大不列顛國船舶と見認めべし

第十四條

兩締盟國の一方の版圖内に駐在する他の一方の總領事、領事、副領事及代辦領事は自國の脱船人を取戻す爲め法律の許す所の補助は之を地方官より受くべきものとす但し海員が其の各自の所屬國に於て脱船したるときは此の規定を適用せざるものと知るべし

第十五條

兩締盟國は其の一方の通商及航海を他の一方に於て總て最惠國の基礎に置く主意を有するに因り通商及航海に關する一切の事項に關し其の一方より別國の政府、船舶、臣民或は人民に現に許與し或は將來許與すべき一切の特典、殊遇若は免除は他の一方の政府、船舶、臣民或は人民にも即時に且條件を附せずして之を許與すべきことを兩締盟國に於て約定す

第十六條

兩締盟國の一方は他の一方の海港、都府及其の他の場所に總領事、領事、副領事、及代辦領事を置くことを得べし但し領事官の駐在を認許するに便宜ならざる場所は此の限に在らず然れども右の制限は他の諸外國に對し之を適用するに非ざれば一方の締盟國に對して之を適用するを得ざるものとす

總領事、領事、副領事、領事代及代辦領事は一切の職務を執行することを得且其在留國に於て最惠國の領事官に現に許與し或は將來許與せらるべき一切の特典、特權及免除は總て之を享有すべきものとす

第十七條

兩締盟國の一方の臣民は他の一方の版圖内に於て法律に定むる所の手續を履行するときは專賣特許商標及意匠に關し内國臣民と同一の保護を受くべし

第十八條

大不列顛國政府は同政府に關する限は左の取極に同意すべし
日本國に在る各外國人居留地は全く其の所在の日本國市區に編入し爾後日本國地方組織の一部となるべし
然る上は日本國當該官吏は之に關して其の地方施政上の責任義務を悉皆負擔すべし又之と同時に右外國人居留地に屬する共有資金若は財産あるときは之を右日本國官吏へ引渡すべきものとす

尤前記外國人居留地を日本國市區に編入の場合には該居留地内にて現に因て以て財産を所持する所の現在永代借地券は有効のものとして確認せらるべし而して右財産に對して

は右借地券に載せたる條件の外は別に何等の條件をも附せざるべし但し借地券中に領事官があるは總て日本國當該官吏を以て之に代ゆべきこと知るべし
外國人居留地公共の目的の爲めに無借料にて既に貸與したる各地所は永代に保存せらるべし且該地所にして最初貸與したるべきの目的に使用せらるる限りは總ての租税及徴收金を免すべし但し土地收用權には従ふべきものとす

第十九條

本條約の規定は法律の許す限は大不列顛國皇帝陛下の殖民地並に其の海外領地に適用すべし但し左に列記する所は此の限に在らず

印度

加奈太領地

ニュー、フアウランドランド

喜望峯殖民地

ナタル

ニュー、サウス・ウエールズ

ヅ井クトリヤ

クギンズランド

タスマニヤ

南濠太利

西濠太利

ニュー、ジラランド

然れども東京駐劄大不列顛國皇帝陛下の代表者より本條約批准交換の日より二箇年内に本條約の規定を前記の殖民地若くは領地の孰れへなりとも適用すべき旨を通知したるときは之を適用すべきものとす

第二十條

本條約は其の實施の日より兩締盟國間に現存する嘉永七年八月二十三日即千八百五十四年十月十四日締結の約定慶應二年五月十三日即千八百六十六年六月廿五日締結の改稅約定安政五年七月十八日即千八百五十八年八月二十六日締結の修好通商條約及之に附屬する一切の諸約定に代はるべきものとす而して該條約及諸約定は右期日より總て無効に歸し隨て大不列顛國が日本帝國に於て執行したる裁判權及該權に屬し又は其の一部として大不列顛國臣民が享有せし所の特典、特權及免除は本條約實施の日より別

日英改正條約

に通知をなす全然消滅に歸したる者とする而して此等の裁判管轄權は本條約實施後に於ては日本帝國裁判所に於て之を執行すべし

第二十一條

本條約は調印の日より少くも五箇年の後迄は實施せられざるものとす而して日本帝國政府に於て本條約を實施せんと欲する旨を大不願國政府に通知したる後一箇年を経るに非ざれば實施せられざるものとす尤此の通知は調印の日より四箇年を経たる後何時にても爲すを得べし又本條約は其の實施の日より十二箇年間効力を有するものとす兩締盟國の一方は本條約實施の日より十一箇年を経過したる後は何時たりとも本條約を終了せんと欲する旨を他の一方へ通知するの權利を有すべし而して此の通知を爲したる後十二箇月を経過したるときは本條約は消滅に歸すべきものとす

第二十二條

本條約は兩盟締國に於て之を批准し其の批准は本日より六箇月以内に可成速に東京に於て交換すべし
右證據として各全權委員は之に記名調印するものなり
明治廿七年七月十六日倫敦に於て本書二通を作る

青木周藏印

キムバーレー印

天佑を保有し萬世一系の帝祚を踐みたる日本國皇帝(御名)此書を見る有衆に宣告す朕帝國と大不列顛國との交際を永久親睦ならしめんことを欲し明治廿七年七月十六日倫敦に於て兩國全權委員の記名調印したる通商航海條約の各條目を親しく閱覽點檢したるに善く朕が意に適し間然する所なきを以て條約を嘉納批准す
神武天皇紀元二千五百五十四年明治廿七年八月廿四日東京宮城に於て親がら名をしるし璽を鈐せしむ

御名 御璽

外務大臣 陸奥宗光印

議定書

日本國皇帝陛下の政府及大不列顛愛蘭國兼印度國皇帝陛下の政府は本日調印せし通商航海條約の外に雙方に關する特別の事項を規定すること兩國の利益上便宜なるを以て雙方の全權委員は左の約定に同意せり

第一 本日調印したる通商航海條約批准交換後一箇月の後は本書附屬輸入税目は兩締

日英改正條約

盟國間に現存する所の安政五年條約の有効なる間は其の第二十三條の規定に準據し又右安政五年條約の無効に歸したる後は本日調印したる條約第五條及第十五條の規定に準據し大不列顛國皇帝陛下の版圖内の生産若し製造に係る物品にして該税目に掲ぐるものを日本國へ輸入する場合に之を適用するものとす但し日本國政府に於て掲ぐるものを日本國へ輸入する場合に之を適用するものとす但し日本國政府に於て純良ならざる藥材、製藥、食物若し飲料、猥褻の印刷物、圖畫、書籍、紙牌、石版若し其の他の彫刻畫、寫眞及其の他總て猥褻の物品、日本帝國の專賣特許、商標及版權に關する法律に違背する物品又は其の他衛生公安若し風俗に關し危害を生ずべき物品の輸入を制限し若し禁止するの權利は本議定書又は其附屬税目の爲め制限せらるゝことなかるべきものとす

該税目に定めたる従價税は之を實行し得べしと認めらるゝ限は本議定書の日附より六箇月間に兩國政府間に締結せらるべき追加條約を以て従量税に換算すべし本議定書の日附より前六箇月間に於ける日本國税關報告に載せたる平均價格に任入地、産出地若し製造地より陸揚港に至る迄の保険料及運賃を加算し又手数料あるときは之をも加算したるものを以て右換算の基礎となすべし若し追加條約にして前記税目を実施する爲めに定めたる期限を終る迄に實施せられざる場合には其の間は前記の税

目の末尾に掲げたる規定に従ひ従價税を徵收すべし

右税目に掲げざる物品に對しては前項に記載せし期日より前項に記載せし如く各安政五年條約第二十三條及本日調印したる條約第五條及第十五條の規定に準據し日本國にて其の時現に行はるゝ所の普通國定税則を適用するものとす

大不列顛國臣民が日本國に輸入する貨物及商品に對し現今日本國に於て實施する所の輸入税日は前項に記載せし各税目實施の日より無効に歸すべきものとす

尤此の外總てのことに付ては現行條約の規定は本日調印したる通商航海條約の實施せらるるに至る迄は無條件にて保護せらるべきものとす

第二 日本國政府は大不列顛國臣民に對し内國を開く迄は現行の旅券方法を擴張することに同意す即大不列顛國臣民が在東京同國公使若し日本國開港場に駐在する大不列顛國領事官よりの紹介證書を所持して出願するに於ては十二箇月以内の期限間國內何れの地へも到ることを得べき旅券を東京外務省若し開港場所在地長官より交付すべし但し帝國の内地に旅行する大不列顛國臣民に關する現行規定は之を保證すべきものと知るべし

第三 日本國政府は日本國に於ける大不列顛國領事裁判權の廢止に先だち工業の所有

日英改正條約

權及版權の保護に關する列國同盟條約に加入すべきことを約す

第四 若日本國に於て何時にても其の精糖の産出若は製造に對し増税を課すること必要と見做すときは其の増加せし内國税を課する間は日本國へ輸入する所の大不列顛國の精糖に對し前記内國税と同額に増加する所の關税を課することを得べきことを兩締盟國に於て承諾す

但し右に關し大不列顛國の精糖は常に最惠國の産出若は製造に係る精糖と同一の取扱を享くべきものとす

第五 左に記名する所の全權委員は本議定書は本日調印した通商航海條約と同時に兩締盟國政府に提供し而して右條約批准せらるるときは本議定書に掲載する所の諸約定も別に正式の批准を要せずして亦兩締盟國政府の認可せしものと看做すべきことを約す

又本議定書は前記條約の無効に歸するに同時に終了すべきことを約す
右記載として兩國全權委員は之に記名調印するものなり

明治二十七年七月十六日倫敦に於て本書二通を作る

青木周藏印

キムマリー印

附屬税目

品目

從價税率

護謄製品

百に付十

セメント

同 五

綿織絲類

同 八

綿織物類、純綿と亞麻若しくは毛絲又は他の交ぜものあるを問はず但し綿の重なる窓玻璃片(尋常の)

同 十

甲 無色及無着色の

同 八

乙 有色着色若しくは砂磨の

同 十

帽子(氈帽とも)

同 十

乾藍

同 十

塊鐵及塊鋼

同 五

道鐵及道鋼

同 五

條鐵、條鋼、竿鐵、竿鋼、板鐵、板鋼

同 七二分の一

日英改正條約

一〇九

葉鐵(チンドプレート) 同
 電鍍板鐵、板鋼 同
 筒鐵、筒鋼、管鐵、管鋼 同
 鉛(塊錠の別なく) 同
 靴底皮 同
 他の熟皮 同
 麻織糸類 同
 麻織物類 同
 水銀 同
 乳膏、乳粉 同
 鐵釘類 同
 無味香油 同
 色油 同
 印刷料紙 同
 糖類 同

一一〇

硝石 同
 鐵螺旋釘及鐵牝牡螺旋類 同
 絹綿繻子 同
 錫(塊錠の別なく) 同
 葉錫(チンプレート) 同
 無味香蠟 同
 電線 同
 鐵線、鋼線、及徑一因の四分一を超ゆる細竿鐵、細竿 同
 毛織絲類 同
 毛織物類、純毛と他の交ぜものあるものを問はず但し毛 同
 の重なる 同
 其他本税目に掲定せざる織絲類 同
 亞鉛(塊錠の別なく) 同
 板亞鉛 同
 從價税算定の規定 同
 日英改正條約 同

一一一

此の税目に従ひ輸入物品に課すべき従價税は其の物品の仕入地、産出地、若は製造地に於ける原價に其の仕入地、産出地、若は製造地より陸揚港に至る迄の保険料、運賃を加算し又手数料あるときは之をも加算して算定すべし



○郵便條例摘要

郵便物差出人受取人ノ心得

- 一 毒藥劇藥爆發燃燒シ易キ物品 流動物腐敗シ易キ物動物植物及物硝子陶器其他ノ郵便物ヲ傷害スベキ物品但保險チナシ郵便局等其筋ノ承認ヲ受ケタル後郵便ニ此限ニアラズ風俗ヲ害スベキ文書圖書ノ類 金銀寶玉貨幣封入郵便ノモハ此限ニアラズハ郵便物トシテ差出スコトヲ得ズ
- 一 郵便ヲ受取タルトキハ未納税不足税及別配達料等ノ支拂ヲ拒ムヲ得ズ

- 一 郵便物未納税不足税アルトキハ届先ヨリ其二倍ヲ納メシム
- 一 届先ニ於テ未納税不足税ヲ納メズ其郵便物ヲ受取ラザルトキハ差出人ニ戻シ其三倍ヲ納メシムヘシ
- 一 官衙へ宛未納税ノ郵便物ハ差出人ニ差戻サル
- 一 郵便税及手数料ハ左ノ如シ

郵便			
種	二種	三種	四種
書狀	はがき	新聞雜誌	書籍類
目方貳匁毎ニ	一枚	一號一個目方拾六匁毎ニ (二號又ハ二號以上一束ノ目方十六匁毎ニ)	目方三十匁毎ニ
貳錢	壹錢	五厘	貳錢

郵便條例

種	
見本及雛形	全
農産物種子	全
	貳錢
	貳錢

一一四

以上郵便物ノ容積ハ曲尺長一尺二寸幅八寸厚五寸ヲ限リ二三四種ノ郵便物ノ目方ハ三百匁ヲ限ル

手 数 料	
書留料	郵便物ノ種類ニ拘ハラズ 六錢
別配達料	三府市内ハ拾錢 其他ノ市内ハ六錢
解船料	船舶ニ達スル別配達ハ配達料ノ外ニ相當ノ解船料ヲ要ス
配達證明料	郵便物ノ種類ニ拘ハラズ 三錢
訴訟書類	全
配達料	五錢

以上書留ノ手数ヲ爲シタルモノニ限ル

郵便物受附時限ハ左ノ如シ

三月一日ヨリ十月三十一日マデハ 午前六時ヨリ午後十時マデ
十一月一日ヨリ翌年二月末日マデハ 午前七時ヨリ午後十時マデ

○小包郵便法摘要

- 一 小包郵便ハ郵便條例ニテ禁止セラレタル物品及ビ信書若クハ音信記入ノ物品ヲ除クノ外何等ノ物品ト雖モ差出スコトヲ得
- 一 郵便局地外ニ送達スル小包郵便物ハ其ノ重量ニ從ヒ左ノ外ニ郵便料ヲ加徴ス
- 一 重量六百匁マデ 二錢 全 一貫匁マデ 四錢
- 一 全一貫五百匁マデ 六錢
- 一 小包郵便物ノ容積及重量ハ左ノ制限ヲ超過スベカラズ
- 一 容積 曲尺二尺四方 重量 一貫五百匁
- 一 登記價格ハ百五十圓ヲ超過スベカラズ
- 一 保險料ハ登記價壹圓マデ七錢壹圓以上ハ壹圓毎ニ壹錢ヲ加フ
- 一 通常小包郵便ノ損害ニ對シテ政府ノ辨償ハ重量百匁ニ付十錢ノ

小包郵便

一一五

一 割合トス
小包郵便料ハ里數及重量ニ比シテ左ノ割合ヲ以テ支拂フベシ

里程	小包郵便料	
	重量	料
二里	テマ	錢八
四里	テマ	錢十
六里	テマ	錢十二
八里	テマ	錢十四
十里	テマ	錢十六
十二里	テマ	錢十八
十四里	テマ	錢二十
十六里	テマ	錢二十二
十八里	テマ	錢二十四
二十里	テマ	錢二十六
二十里	テマ	錢二十八
二十里	テマ	錢三十
二十里	テマ	錢三十二
二十里	テマ	錢三十四
二十里	テマ	錢三十六
二十里	テマ	錢三十八
二十里	テマ	錢四十
二十里	テマ	錢四十二
二十里	テマ	錢四十四
二十里	テマ	錢四十六
二十里	テマ	錢四十八
二十里	テマ	錢五十
二十里	テマ	錢五十二
二十里	テマ	錢五十四
二十里	テマ	錢五十六
二十里	テマ	錢五十八
二十里	テマ	錢六十
二十里	テマ	錢六十二
二十里	テマ	錢六十四
二十里	テマ	錢六十六
二十里	テマ	錢六十八
二十里	テマ	錢七十
二十里	テマ	錢七十二
二十里	テマ	錢七十四
二十里	テマ	錢七十六
二十里	テマ	錢七十八
二十里	テマ	錢八十
二十里	テマ	錢八十二
二十里	テマ	錢八十四
二十里	テマ	錢八十六
二十里	テマ	錢八十八
二十里	テマ	錢九十
二十里	テマ	錢九十二
二十里	テマ	錢九十四
二十里	テマ	錢九十六
二十里	テマ	錢九十八
二十里	テマ	錢一百

○小包郵便發送里程表

相摸國	武藏國	安房國	上總國	下總國	常陸國	下野國	駿河國	甲斐國	伊豆國	相模國	武藏國
橫須賀、藤澤、大磯、浦賀、戸塚、鎌倉、平塚、	國府津、神奈川、品川、千佳、西小松川、王子、浦和、	館山、東金、茂原、取手、成田、木下、水海道、	木更津、佐倉、古河、	千葉、	土浦、	小山、	沼津、御殿場、吉原、	甲府、勝沼、石和、谷村、吉田、日下部、猿橋、	熱海、三島、大仁、	小田原、箱根、宮ノ下、	本庄、大宮郷、兒玉、
貳拾里迄ノ部						四拾里迄ノ部					

小包郵便里程表

磐城國	下野國	上野國	常陸國	上總國	下總國	上野國
白河、棚倉、平	草津、岩村田、長野、下田、伊豆國、駿河國、靜岡、清水、藤枝、岩淵、江尻、鹽尻、上諏訪、屋代	草津、岩村田、長野、下田、伊豆國、駿河國、靜岡、清水、藤枝、岩淵、江尻、鹽尻、上諏訪、屋代	白河、棚倉、平	輕井澤、今市、石橋、黒磯	鹿沼、日光、栃木、佐野、足利、喜連川	大宮、勝浦、銚子、太田、高崎、伊香保、館林、桐生、沼田、澁川、藤岡

岩代國	越後國	三河國	遠江國	磐城國	岩代國	陸前國	羽前國	信濃國	越後國	紀伊國	尾張國	三河國
須賀川、郡山、本宮	十日町	豐橋	掛川、見附、濱松、森町、二俣、中泉	白石、三卷	福島、二本松、桑折、若松、川俣、喜多方、梁川	保原、掛田、飯坂	大河原、米澤、飯田、伊奈、妻籠、福島	高田、直江津、柏崎、長岡、三條、見附、今町	村松、小千谷、出雲崎、新井	百里迄ノ部	尾鷲、名古屋、半田、龜崎、瀬戸、前々須、枇杷島	阿崎、一色、西尾

小包郵便里程表

河內國 和泉國 攝津國 丹波國 丹後國 但馬國 因幡國 播磨國 備前國 備中國 紀伊國 淡路國 阿波國 讚岐國 陸奥國 陸中國

二百里迄ノ部
 富田林、岸和田、神戶、福知山、舞鶴、豐岡、鳥取、姫路、加古川、岡山、倉敷、和歌山、洲本、徳島、長尾東、宮古、青森、
 三田、有馬、池田、御影、岩瀬、久美濱、出石、八鹿、湯島、赤穂、高砂、網干、飾摩、龍野、用瀬、和山、峰山、生野、野頭、明石、龍野、赤穂、高砂、網干、飾摩、
 西大寺、味野、南部、田邊、川島、志度、土庄、五所河原、漆澤、小湊、八戸、田名部、

羽後國 備中國 備後國 安藝國 周防國 阿波國 讚岐國 伊豫國 土佐國 伯耆國 出雲國 石見國 隱岐國 渡島國 膽振國

二百五十里迄ノ部
 福代、大館、野邊地、浜岡、黒石、笠岡、高梁、井原、尾道、三次、三原、吳、廣島、可部、吉田、竹原、江田島、池田、新港、
 阪出、丸龜、多度津、琴平、觀音寺、今治、三津濱、久万町、西條、川之江、佐川、越知、安藝、赤岡、伊野、須崎、米子、境、橋津、山長、赤崎、根雨、
 安來、今市、木次、杵築、大東、平田、大津、福山、江差、森、室蘭、西紋別、

小包郵便里程表

一 シ然ラザレバ少量ノ差ニテ賃錢ニ違ヒアリ

一 小包郵便物ハ紙包ノ糊付トナシ嚴封シテ認印ヲ捺シテ差出スベシ

一 小包郵便物ヲ差出ニハ郵便局其他取扱所ニテ送票ヲ受取り受取人差出人等ヲ記名シ之ニ切手(郵便料)ヲ貼付シテ出スベシ

○郵便爲替并電信爲替心得摘要

○爲替差出人ハ其取扱所ニテ爲替願書用紙ヲ申受ケ之ニ金高及年月日受取ヘキ局所名差出人並ニ受取人ノ宿所姓名ヲ認メ捺印シ郵便切手(爲替料ニ換ヘ)ヲ貼附シ差出シ爲替證書ハ直チニ自分ヨリ受取人ヘ送ルベク又別封ニテ差出人受取人ノ宿所姓名等最初爲替願書ニ認メント相違セサル様通知スベシ○爲替受取人ハ爲替證書ノ記名調印ノ部ヘ姓名ヲ認メ捺印シ拂渡局ニ差出シ其ノ局所ニテ尋ヌル宿所姓名等ヲ明ラカニ答ヘ受取ベシ○電信爲替差出シ方ハ郵便爲替ト同シ但自分ヨリ受取人ヘ電報ヲ以テ通知スベシ○電信爲替證書ハ拂渡局ニテ調製シ受取人ヘ通知スル者ナレハ受取人ハ其通知書ニ差出人宿

所姓名ヲ明ラカニ認メ爲替證書ヲ受取ベシ又爲替金ノ受取ハ普通爲替ノ手續ヲナスヘシ

○郵便爲替料

爲替證書一枚ノ金高ハ三十圓ヲ限リ端數ハ厘位ヲ限ルヘシ爲替料ハ路程ノ遠近ニ係ハラズ左ノ割合ニテ納ム可シ

爲替金高

金五圓迄	四	錢	金十圓迄	六	錢
金二十圓迄	十	錢	金三十圓迄	十五	錢

清國上海ト内地間トニ於テ授受スル爲替料ハ左ノ如シ

爲替金高

金十圓迄	十	錢	金二十四迄	二十	錢
金三十圓迄	三十	錢			

通常爲替拂期限ハ振出渡タル日ヨリ百二十日限リトス

○郵便小爲替料

郵便小爲替證書ハ一枚ノ金額ヲ三圓以下トシ端數ハ厘位ヲ限ルヘシ爲替料證書一枚ニ付

三

錢

郵便爲替料

小爲替證書ノ効用ハ其證書ノ日附ヨリ六十日ヲ限リトス

○電信爲替料

電信爲替證書一枚ノ金高ハ三十圓迄ヲ限リトス一圓ニ滿タザル端數ハ差出スコトヲ得ズ○爲替料ハ路程ノ遠近ニ係ハラズ左ノ割合ヲ以テ納ムベシ

爲替金高

金五圓迄	二十八錢	金十四圓迄	三十錢
金廿圓迄	三十五錢	金卅圓迄	四十錢

○内國電報料

和文片假名十字以内(一音信) 金十五錢
 右十字以内ヲ加フル毎二十錢ヲ増ス
 歐文五語以内(住所氏名共) 金廿五錢
 右一語ヲ加フル毎二金五錢ヲ増ス
 和文片假名(一音信一市内) 金五錢
 和文五語以内(同上) 金十錢
 右和文ハ十字以内ヲ加フル毎二金三錢歐文ハ一語ヲ加フル毎二金二錢ヲ増ス
 至急官報ハ通常電報料ノ 二倍

至急私報ハ(同上)

三倍

追尾電報料ハ追尾一回毎ニ原電報料ノ半額ヲ増ス
 同文電報料ハ原信料ヲ除クノ外一通毎ニ和文ハ五錢歐文ハ拾五錢ヲ加フ
 照校電報料ハ原信料ノ半額ヲ増ス
 受信電報料ハ和文ハ一音信歐文ハ五語ノ料金ヲ増ス
 電報料ハ郵便切手ヲ以テ納ム可シ
 別使配達料ハ九丁毎ニ三錢
 解船配達料ハ金廿錢

尋問改正

受信人電報ノ字句ニ疑惑アリテ尋問ヲ要スルキハ其電報ヲ受取タル時ヨリ廿四時以内ニ請求ス可シ但其料金ヲ假納ス可シ
 發信人ハ電報ノ字句ニ改正ヲ要スルキハ其電報ヲ依托シタル時ヨリ七十二時以内請求ス可シ但發信人タルノ證據ヲ差出ス可シ

電報發送

發信人ハ電報一通毎ニ三名マテ連署スルヲ得
 受信人ノ便利ヲ圖リ電報ヲ電信分局ニ預ケ置ントスルキハ其局宛トナスモ妨ケナシ郵便ニテ電報ヲ依托スルキハ電報文ト切手トヲ合封シテ電信分局ヘ宛テ差出ス可シ
 電報ヲ依托スル時刻ハ開局時間即チ午前六時ヨリ午後十時マデニ限ル可シ至急官報ハ

電報

此限ニ非ズ
電信分局ヨリ一里以内ノ地ニ配達スル電信ハ手数料ヲ要セズ

電報符號

至急電報	ウナ	追尾電報	チヲ
同文電報	ヨム	照校電報	ムニ
電信料前納	ナツ	局符	ヤム
郵便配達	ツツ	書留配達	カナ
解船配達	ハホ		
		改正追尾	ナナ
		受信電報	ニナ
		親展	ニカ
		別使配達	マツ

爲替取扱日時

取扱休業日

一月一日	一月二日	一月三日	新年宴會
紀元節	春季皇靈祭	神宮神嘗祭	天長節
			孝明天皇祭
			新嘗祭

取扱時限

九月十一日ヨリ七月十日迄
 七月十一日ヨリ九月十日迄
 毎週土曜日ハ(七月十一日ヨリ九月十日迄ヲ除ク)午後三時迄

午前八時ヨリ午後四時迄
 午前八時ヨリ正午十二時迄

○郵便貯金法摘要

- 一 郵便貯金預リ高ハ一人一度金拾錢以上端數ハ厘位ニ限リ五十圓以下トス
- 一 一人ノ預金總高ハ元利合セテ五百圓ニ超過スルコトヲ得ズ
- 一 利子割合及計算ハ左ノ如シ
 - 一 二十四年一月ヨリ
 - 一ケ年 元金百分ノ四分二厘
 - 一 利子 二十三年十二月以前ノ貯金ニテ
 - 一人預金千圓ヲ超ヘタルモノ 一ケ年 元金百分ノ三
- 一 利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシ計算シ元金ニ加ヘ四月ヨリ更ニ利子ヲ附ス
- 一 預リタル月及拾錢未滿ノ端數并ニ拂戻證書發付ノ月ハ利子ヲ附セズ

○外國郵便規則

一 倍書ハ其寸尺重量共ニ制限ナシ
 一 郵便端書ハ萬國郵便聯合端書ヲ使用シ聯合國ニ限リ之ヲ發送スルヲ得
 一 各種印刷物ハ印刷物普通ノ性質ヲ具ヘ現ニ相互ノ間ニ往復スル音信文ノ性質ヲ有セサルモノニシテ検査シ易キ様ニ包裝シ其一面ノ寸尺ハ四十五「サンチメートル」(曲尺凡一尺四寸九分八厘)及卷物體ノモノハ長サ七十五「サンチメートル」(曲尺凡二尺四寸九分七厘)中經十「サンチメートル」(曲尺凡三寸三分三厘)並ニ重量ハ二十「グラム」(凡五百三十二分)ヲ超過スルヲ得ズ
 一 訴訟用及商業用書類ハ現ニ相互ノ間ニ往復スル音信文ノ性質ヲ具ヘザル全部若クハ一部ヲ筆書セシ各種ノ文書ニシテ検査シ易キ様ニ包裝スベシ、寸尺重量ハ印刷

物ト異ナルコトナシ

一 商品見本ハ市價チ有セサルモノトス
 商品見本ノ寸尺ハ長サ三十「サンチメートル」(曲尺凡九寸九分九厘)幅二十「サンチメートル」(曲尺凡六寸六分六厘)厚十「サンチメートル」(曲尺三寸三分三厘)及卷物ノモノハ長サ三十「サンチメートル」(曲尺九寸九分九厘)中經十五「サンチメートル」(曲尺凡四寸九分九厘)又其重量ハ二百五十「グラム」(凡六百六十五分)以內トス 但シ英國宛ノモノハ重量三百五十「グラム」(凡九十三分一分)ニ達スルヲ得
 一 聯合國ハ發送スル郵便物ハ倍書及郵便端書ヲ除キ其他ハ郵便税ノ一部分ヲ前拂スベシ
 一 聯合外ノ國ハ發送スル郵便物ハ前拂タル

ヘシ
 一 郵便物ハ其種類ニ拘ハラズ聯合國ニ宛タルモノニ限リ都テ書留トシテ發送スルヲ得
 一 聯合國ニ宛タル書留郵便物ニ對シ其到達證ヲ請求スル者アルトキハ郵便税並ニ書留手数料ノ外一個ニ付金五錢ノ増手数料ヲ納メシムヘシ

一 別配達ノ郵便物ヲ差出ス者アルトキハ通常郵便税ノ外豫メ六錢ノ増手数料ヲ納メシムヘシ
 一 郵便物ヲ汚穢損害スヘキモノ、爆發性、腐蝕性、其他危險ノモノ、生死ノ獸類、蟲類、流通正貨、關稅ヲ課スヘキ物品、金銀、寶石、珠玉、其他高價ナル物品

○外國郵便爲替表付爲替取扱局名

萬國郵便爲替	貳拾五磅每ニ	六錢	加那太爲替	貳拾五弗迄	貳拾五錢
英國及其	拾磅迄	貳拾五錢	香港及其	次項ヲ	貳拾五錢
佛國爲替	百貳拾五法迄	五拾錢	煤介爲替	除ク	五拾錢
伊國及其	五拾法迄	拾貳錢	香港煤介海峽	貳拾五弗迄	參拾五錢
煤介爲替	以上貳拾五法每ニ	六錢	殖民地爲替	在清國上海局ハ特ニ米	七拾錢
米國爲替	五拾弗迄	五拾錢	上海爲替	國爲替ノミヲ取扱フ	壹圓
	七拾五弗迄	七拾五錢	萬國郵便爲替拂渡通知料		五錢
	百弗迄	壹圓			

外國郵便規則

六錢

爲替金、爲替券、爲替
到着報知書別配達料
電信爲替ハ別ニ相當ノ電報料ヲ徵收スベキ
モ、至急、返信料濟、照校、受信報知、郵便
配達別配達トナシ又拂渡通知ヲ受クルコト
テ得
○左ノ七局ニ於テハ萬國郵便爲替ヲ外國ノ
各局ニ對シ直接ニ振出拂渡ヲ取扱フ其電信
ニ係ル分ハ東京橫濱ノ二局ニ限ル
但日爾曼ニ限リ特例ヲ以テ次項ニ依リ各

○海外電信料摘要

●朝鮮國發着電報料並海外電報ノ國內
電送料ハ左ノ如シ
一本邦ヨリ朝鮮國ニ發着スル釜山迄ノ電報
一音信 四十錢
但對馬釜山間ハ三十錢トス
一本邦ヨリ朝鮮國釜山ニ發着スル電報ハ和
文片假名七字歐文ハ一語ヲ以テ一音信ト

局ニテモ取扱フ

東京郵便電信局 京都郵便電信局
大阪郵便電信局 橫濱郵便電信局
神戸郵便電信局 長崎郵便電信局
函館郵便電信局
特別約定爲替ハ一般內國郵便爲替取扱フ
(各支局在海外ノ局ヲ除ク)ニ於テ取扱フ
但香港及其媒介爲替ニ限リ特例ヲ以テ前
項各局ニ於テ直接取扱ヲナス

ス片假名七字ニ滿タサルモノ亦同シ

一本邦ヨリ釜山ニ發着スル電報ハ和文ハ受
信人ノ住所氏名ヲ字數ニ算入セズ歐文ハ
發信人受信人ノ住所姓名共ニ算入ス
一前三項ノ外日本朝鮮兩國間ノ電報ハ總テ
電信萬國條約書ニ依テ取扱フモノトス
一海外電報ニ日本語ヲ用ユルトキハ羅馬字

ヲ以テ書スベシ
一海外電報ノ國內傳送料ハ何ノ地ヨリ發ス
ルナ間ハズ一語毎ニ左ノ如シ長崎以外ノ
傳送料ハ海外各國ニ於テ定ムル所ニ依ル
ベシ

歐羅巴埃及以西 正貨十七錢
亞細亞(亞細亞露西亞及)其他 正貨廿錢
亞細亞(土耳其除ク)地方 正貨廿錢
香港、厦門、福州、上海、吳松 正貨十錢
コウソウ、長崎、下直發着 正貨十錢
一釜山浦ヨリ海外へ發スル電報長崎迄一語
ノ料ハ
歐羅巴埃及以西 釜山長崎間 正貨五十七錢
亞細亞(亞細亞露西亞及)其他地方 正貨六十錢
釜山長崎間 正貨六十錢
但丁林國電信會社ノ海底電線通行料
ヲ含有ス其他ハ海外電信料表ニ依リ
收ムヘシ
●朝鮮國京城ヨリ釜山ヲ經テ歐羅
巴及其以西各國へ發着スル電報ノ
釜山長崎間經行料

各國電報料

亞細亞各地	釜山(フサン)	四十錢
元山(ユエンサン)	六十錢	
漢城(ハンセル)	六十錢	
仁川(ニンチュアン)	六十錢	
上海(フウナン)	七十錢	
福州(フウナン)	七十錢	
香港(ホンゴン)	七十四錢	
北京(ペキン)	七十四錢	
天津(テンシン)	七十四錢	
吳淞(ウソウ)	八十六錢	
船料(フネ)	八十六錢	
料金(ネ)	八十六錢	
亞細亞土耳其	一圓三十七錢	
亞細亞土耳其	二圓四十八錢	

亞細亞露西亞 一圓八厘
 新嘉坡(シンガポール) 二圓三十錢
 マラツカア 二圓四十四錢
 波斯(ペルシヤ) 二圓七拾三錢四厘
 緬甸(ビルマ) 三圓七錢
 印度 三圓
 錫蘭(セイロン) 三圓三錢二厘二毛
 安南(アンナム) 一圓八十一錢
 暹羅(サイアム) 二圓四錢八厘
 ●歐羅巴
 歐羅巴(露西亞を除ク) 二圓五十五錢
 歐羅巴露西亞及甲加索 二圓十九錢四厘四毛
 ●亞弗利加
 埃及地方(第一部) 二圓五十五錢
 (第二部) 二圓六十二錢
 (第三部) 二圓六十九錢
 ●濠斯太利西亞外群島
 南、西濠斯太利西亞 三圓三十三錢六厘
 維多利亞(ウイクトリア) 三圓三十六錢四厘

瓜哇(ジャワ) 二圓五十八錢
 馬尼刺(マニラ) 一圓九十五錢
 ●北亞米利加其他
 カリホルニヤ 三圓八錢二厘
 イリノイス(チカゴ) 二圓九十八錢四厘
 ケンタツキイ 二圓九十錢
 カナダ、チンタリチ、 二圓九十錢
 キュベツク 二圓九十八錢四厘
 南北カロリナ 二圓九十錢
 マサチユセツツ 二圓九十八錢四厘
 ミチガン 三圓八錢二厘
 コロンビヤ、プリチシユ 三圓八錢二厘
 子バダ 三圓八錢二厘
 コンチクチカツト 二圓九十錢
 ●墨西哥地方
 新克約地方(ニユウヨルク) 二圓九十錢
 シチイ、ブル 二圓九十錢
 ンカリス、ヨウ 二圓九十錢
 エルノール島 二圓九十錢
 其他各地

メキシコ、シチー 三圓四十三錢二厘
 サウス 三圓十六錢六厘
 ウエラ、クルーズ 三圓四十三錢二厘
 ●中央亞米利加地方
 コスタ、リカ 四圓三十八錢四厘
 サルウエ(リヘルタツド) 三圓九十五錢
 ドル地方(其他各地) 四圓三錢四厘
 ●南亞米利加地方
 アルゼンタイン 四圓五十一錢七厘
 ●ブラツル地方
 リオデ、ジエチイロ及其北部 四圓五十一
 即チブラツル北部及中央部 錢七厘
 リオ、テジエチイロ以 四圓七十九錢七厘
 南地方即ブラツル南部 四圓七十錢六厘
 智利 四圓七十錢六厘
 備考 長崎ヨリ上海廈門福州及香港へ直送

○證券印稅摘要

第一類 左ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多少ニ拘ラズ下
 證券印紙摘要

スル電報ハ本表料ノ内一語ニ付金十
 錢ヲ減ス
 對馬釜山間電報料ハ一語ニ付金三十
 錢トス
 歐羅巴及埃及以西各地又ハ亞細亞土
 耳其へ發送スル返信料前納電報ノ返
 信料金並ニ受信電報ノ返信料ニハ本
 表料金額ノ外一語ニ付金六錢八厘
 ナ増課ス
 釜山ヨリ發送スル電報ニシテ本邦ヲ
 經テ海外各地ニ至ル料ハ一語ニ付金
 四十八錢ヲ増課ス
 但返信料金ハ前條ニ同シ

ニ定ムル印紙ヲ貼用スベシ
 一當座預リ金引出小切手及委託狀 五厘

一金高記載ナキ約定証文○預金物証文○跡式讓証文○讓與証文○期限ヲ定メザル預り金証文○耕地小作証文○雇人請合証文○金高記載ナキ諸物品預り証文○金高記載ナキ諸物品借用証文○地券家屋預り証文○諸物品切手○借地借家証文○賣買仕切書○保險証文○諸會社株券○送金手形○金錢物品通帳(以上一年以内一冊ニ付) 一錢

一結社約定書 一錢

一營業ニ關スル送狀及諸受取書(但金五圓トス右證書ヲ通帳トナストキハ總テ一年以内一冊ニ付一錢印紙ヲ貼用ス) 一錢

第二類

左ニ掲ケル證書ハ金高ノ多少ニヨリ下ニ定ムル割合ニテ印紙ヲ貼用スベシ

但爲替約束手形ハ手形用紙ヲ用ユベシ

一金錢借用証文○地所家屋賣買証文○金高記載アル諸物品預り証文○全上借用証文○諸物品賣買証文○金錢定期預り証文○金高

記載アル諸般ノ契約證書

金壹圓以上二十圓未満 二錢

金二十圓以上五十圓未満 四錢

金五十圓以上百圓未満 六錢

金百圓以上百五十圓未満 八錢

金百五十圓以上二百圓未満 十一錢

金二百圓以上三百圓未満 十四錢

金三百圓以上四百圓未満 十八錢

金四百圓以上六百圓未満 廿二錢

金六百圓以上八百圓未満 廿六錢

金八百圓以上千圓未満 卅二錢

金千圓以上千四百圓未満 卅八錢

金千四百圓以上千七百圓未満 四十四錢

金千七百圓以上二千圓未満 五十錢

金二千圓以上二千五百圓未満 六十錢

金二千五百圓以上三千圓未満 七十錢

金三千圓以上三千五百圓未満 八十錢

金三千五百圓以上四千圓未満 九十錢

金四千圓以上 壹圓

右證書ヲ通帳トナストキハ其附近見積金高ニヨリ壹百圓未満ハ四錢壹百圓以上ハ總テ稅率ニ據レリ貼用スベシ

一金錢當坐預り証文○實物預り書(小札)壹圓以上廿圓未満 一錢

○廿圓以上 二錢

右帳簿ヲ通帳トナスキハ其見積金高百圓未満ハ二錢百圓以上ハ四錢トス

一爲替手形○荷爲替手形○約束手形ハ其ノ印稅左ノ如シ

金五十圓未満 一錢

金五十圓以上百圓未満 二錢

金百圓以上二百圓未満 四錢

金二百圓以上五百圓未満 八錢

金五百圓以上千圓未満 十五錢

金千圓以上二千圓未満 廿五錢

金二千圓以上 五十錢

前ニ掲ケル所ノ證書帳簿ト効用ヲ全フスルモノハ總テ稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スベシ

○民事訴訟用印紙法摘要

財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應ジ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

訴訟物ノ價額

金五圓迄 二十錢

金十圓迄 三十錢

民事訴訟用印紙

金二十圓迄 六十錢

金五十圓迄 一圓五十錢

金七十五圓迄 二圓二十錢

金百圓迄 三圓

金二百五十圓迄 六圓五十錢

金五百圓迄 十圓

一三九

金七百五十圓迄 十三圓
 金千圓迄 十五圓
 金二千五百圓迄 二十圓
 金五千圓迄 二十五圓
 金五千圓以上ハ千圓ニ達スル
 毎二二圓ヲ加フ

一 財産權上ノ請求ニ非ザル訴訟ニ付テハ其
 訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用ス
 可シ○財産權上ノ請求ニ非ザル訴訟物ト
 其訴訟ニ由テ生スル財産權上ノ訴訟ト併
 合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ
 價額ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ
 一本訴ト反訴ト其目的カ同一ノ訴訟物ナル
 トキハ反訴ノ訴訟ニ印紙ヲ貼用スルヲ要
 セズ
 一 控訴狀ニハ第一審ノ訴訟貼用規定ノ半
 額、上告狀ニハ其金額ノ印紙ヲ加貼ス可

○商事非訟事件印紙法摘要

左ニ掲クル書類ニハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス
 ベシ

第一 抗告
 第二 故障
 第三 證據調ノ申立
 第四 假差押及ヒ假處分ノ申請
 第五 判決ノ送達アラシクテ請求ムル申立
 第六 執行力アル正本ヲ請求ムル申立但此
 正本ノ數通ヲ請求ムルトキハ其一通毎ニ
 五十錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

印紙ノ種類

淡黑色定價	三錢	黑色定價	五錢
赭色同	十錢	茶褐色同	五十錢
黃色同	一圓	青色同	五圓
橙黃色同	十圓	綠色同	十五圓
褐色同	二十圓		

(此法ハ商法登記ニ關スル場合ヲ除ク)

左ニ掲クルモノニ付テハ五十錢ノ印紙ヲ貼
 用ス可シ

一 抗告又ハ假差押ノ申立
 二 債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立
 三 支拂猶豫ノ申立
 左ニ掲クルモノニ付テハ二十錢ノ印紙ヲ貼
 用ス可シ

一 抗告ニ對スル答辯
 二 裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシ
 テ本法ニ於テ特ニ規定セサル非訟事
 件ニ係ルモノ

一 破産手續ニ付テハ破産財團中ノ貸方金額
 ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ貼用ス可シ但財團管
 理費用其他破産手續上ノ費用及ヒ財團ノ爲
 メニ負擔シタル債務並ニ別除ノ辨濟ニ供ス
 ル金額ハ貸方金額ヨリ之ヲ控除ス可キモノ

○登記料及手数料

登記料及手数料

トス

財團ノ價額五圓迄	四十錢
同十圓迄	六十錢
同二十圓迄	一圓二十錢
同五十圓迄	三圓
同七十五圓迄	四圓四十錢
同百圓迄	六圓
同二百五十圓迄	十三圓
同五百圓迄	二十圓
同七百五十圓迄	二十六圓
同千圓迄	三十四圓
同二千五百圓迄	四十四圓
同五千圓迄	五十四圓
同五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎二四圓ヲ 加フ	

地所建物船積賣買ノ登記ノ登記料ハ左ノ如シ

賣買代價	登記料
五圓未滿	五錢
五圓以上十圓未滿	拾錢
十圓以上二十五圓未滿	貳拾五錢
二十五圓以上五十圓未滿	五拾錢
五十圓以上百圓未滿	壹圓
百圓以上二百圓未滿	貳圓
二百圓以上三百圓未滿	三圓
三百圓以上四百圓未滿	四圓
四百圓以上五百圓未滿	五圓
五百圓以上七百五十圓未滿	六圓
七百五十圓以上千圓未滿	七圓
千圓以上千五百圓未滿	八圓
千五百圓以上二千圓未滿	九圓

二千圓以上五千圓未滿 拾圓
 五千圓以上一萬圓未滿 拾貳圓
 以上五千圓マテ毎ニ貳圓ヲ增加ス
 但シ地所建物船積賣買ノ登記ハ右ニ
 掲クル金額ノ區別ニ從ヒ毎ニ一件ニ其登
 記料ノ半額ヲ納メシメ(但シ一件ニ付金
 五錢ヨリ下ストナ得ズ)○家督相續ニ因
 リ地所建物船積ノ登記ハ金額ノ區別ニ從
 ヒ毎ニ一件ニ其登記料ノ五分一ヲ納メシ
 ム(但シ家督相續ノ日ヨリ六十日ヲ過キ
 タルモノハ金額ヲ納メシム)但一件ニ付
 三錢ヲ下ストナ得ズ
 又登記事件ノ取消又ハ其變更ノ登記ヲ請フ
 者ハ毎ニ一件○登記ノ謄本若クハ拔書ヲ請
 フ者ハ毎ニ一枚○登記ノ一覽ヲ請フ者ハ各
 手数料金五錢ヲ納メシム

○商業及船舶ニ關スル手数料摘要

商業ノ登記公告ノ手数料左ノ如シ
 第一 商號、後見人、未成年者、婚姻契約
 及ヒ代務ノ登記公告ハ本店ト支店トニ拘
 ハラス各金三拾錢
 其變更又ハ追加ノ登記公告ニ付テモ亦同
 第二 會社ノ登記公告ハ本店ト支店トニ拘
 ハラス合名會社ニ付テハ金六圓合資會社
 株式會社ニ付テハ各金十圓
 其變更又ハ追加ノ登記公告ハ每一件ニ付
 五圓青色

○全國汽車乘車賃金表

從新橋至橫濱 (下リ)	從橫濱至新橋 (上リ)
品川 大森 川崎 鶴見 神奈川 橫濱	神奈川 鶴見 川崎 大森 品川 新橋
四 七 一 二 一 四 一 八 二 〇	二 六 八 一 三 一 六 二 〇
從新橋至神戶 (下リ)	
新橋 神戶 間	
二 〇 二 〇 二 〇 二 〇 二 〇 二 〇	
從新橋至神戶 (下リ)	
新橋 大塚 船 藤 澤 平 塚 大 磯	
二 〇 二 〇 二 〇 二 〇 二 〇 二 〇 二 〇 二 〇	

全國汽車乘車賃金表

金三拾錢

第三 登記簿ノ閱覽ニ付テハ金拾錢
 第四 登記簿ノ謄本ハ用紙一枚ニ付金拾錢
 但一行二十字ニ行ヲ以テ壹枚トシ十一
 行以上ハ壹枚十行以下半枚トス
 手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

○登記印紙ノ種類及定價
 一厘、五厘綠色、壹錢、貳錢五厘、三錢、
 五錢、拾錢、五拾錢茶褐色、壹圓、貳圓、
 五圓青色

茨木	大谷	米原	一宮	安城	濱松	藤枝	鈴川	國府津
三、四七	三、二一	二、八四	二、四六	二、一五	一、六八	一、三二	九、六	四、九
吹田	山科	彦根	木曾川	菊谷	舞坂	島田	岩淵	松五田
三、五一	三、二四	二、八八	二、四九	二、三〇	一、七四	一、三七	一、〇一	五、五
大坂	稻荷	能登川	岐阜	大府	鷺津	金谷	蒲原	山北
三、五六	三、二七	二、九六	二、五四	二、二三	一、八〇	一、四〇	一、〇四	五、九
神崎	京都	八幡	大垣	大高	豐橋	堀内	與津	小四山
三、六〇	三、二九	三、〇二	二、六三	二、二七	一、九〇	一、四六	一、〇津	六、四
西宮	向日町	野洲	垂井	熱田	御油	掛川	江尻	御殿場
三、六五	三、三三	三、〇八	二、六八	二、三一	一、九五	一、五〇	一、三三	七、一
住吉	山崎	草津	關原	名古屋	蒲郡	袋井	静岡	佐野
三、七〇	三、三八	三、二二	二、七一	二、三五	二、〇一	一、五六	一、二〇	八、〇
三ノ宮	高槻	馬場	長岡	清洲	岡崎	中泉	焼津	沼津
三、七六	三、四三	三、一九	二、七八	二、四〇	二、一〇	一、六一	一、二八	八、六

一四四

神三、七六
從神戸至新橋 (上)

三ノ宮	高槻	馬場	長岡	清洲	岡崎	中泉
三、一宮	三、三三	五、七	九、八	一、三六	一、六六	二、一五
住吉	山崎	草津	關ヶ原	名古屋	蒲郡	袋井
六、吉	三、八	六、四	一、〇五	一、四〇	一、七五	二、二〇
西ノ宮	向日町	野洲	垂井	熱田	御油	掛川
一、一宮	四、三	六、八	一、〇八	一、四五	一、八一	二、二六
神崎	京都	八幡	大垣	大高	豐橋	堀内
一、六崎	四、七	七、四	一、三垣	一、四九	一、八六	二、三〇
大坂	稻荷	能登川	岐阜	大府	鷺津	金谷
二、〇坂	四、九	八、〇	二、二阜	一、五三	一、九六	二、三六
吹田	山崎	彦根	木曾川	蒲郡	袋井	静岡
二、五田	五、二	八、八	一、二七	一、五六	二、〇二	二、三九
茨木	大谷	米原	一宮	安城	濱松	藤枝
二、九木	五、五	九、二	一、三〇	一、六一	二、〇八	二、四四

全國汽車乘車賃金表

一四五

燒津 二、四八
 沼津 二、九〇
 大磯 三、三三
 新橋 三、七六

靜岡 二、五六
 佐野 二、九六
 平塚 三、三六

藤澤 三、四四
 大船 三、四七

浦原 二、七二
 山北 三、一七
 程ヶ谷 三、五六

岩淵 二、七五
 松田 三、二一
 國府津 三、二七

鈴川 二、八〇

一四六

●大船横須賀間

從大船至横須賀 (下り)

鎌倉 三倉 退 五子 横須賀 一〇賀

從横須賀至大船 (上り)

退 五子 鎌倉 七倉 大船 一〇船

●大府武豊間

從大府至武豊 (下り)

從武豊至大府 (上り)

●米原金ヶ崎間

龜崎 中田 武豊 一〇三

中田 龜崎 六崎 大府 一三府

長濱 高 一月 井ノ口 木ノ本 中ノ郷 柳ヶ瀬 正 二九田

敦賀 正 五月 柳ヶ瀬 中ノ郷 木ノ本 井ノ口 高 二二月

長濱 三〇濱 米 三五原

●京都大阪神戸間

向日町 山崎 高槻 茨木 吹田 大坂 神崎

西ノ宮 住吉 三ノ宮 神戶 吹田 大坂 神崎

●全國汽車乘車賃金表

三ノ宮 住吉 西ノ宮 神戶 大坂 吹田 茨木 二九水

一四七

高 三 槻 山 崎 向 日 町 京 四 七 都

一四八

●桑名草津間

宮 五 川 三 五 七 石 五 八 部 草 五 九 津 關 二 九 山 關 三 三 柘 四 五 植

深 五 川 三 五 七 石 五 八 部 草 五 九 津 關 二 九 山 關 三 三 柘 四 五 植

石 七 部 三 一 三 雲 深 二 〇 川 柘 三 〇 植 關 四 二 龜 四 七 山 高 四 八 宮

河 原 田 四 日 市 富 五 四 田 桑 五 九 名 關 四 二 龜 四 七 山 高 四 八 宮

下ノ莊 一 身 田 津 一 三 一 身 田 下ノ莊 龜 一 三 山

阿 三 溝 高 茶 屋 六 一 軒 板 一 五 版 相 二 可 田 二 七 丸 宮 三 〇 川

田 三 丸 相 九 可 松 一 五 版 六 一 九 軒 高 茶 屋 二 四 阿 二 七 清 津 三 〇

●難波堺間

天下茶屋 住 四 吉 堺 七 住 三 吉 天下茶屋 難 七 波

天王寺 平 六 野 八 一 〇 尾 柏 一 四 原 王 二 三 寺 法 隆 寺 郡 三 一 山

奈 三 五 瓦 王 子 下 六 田 高 一 〇 田 畝 一 四 火 櫻 一 八 井 郡 三 一 山

郡 四 山 法 隆 寺 王 一 三 寺 柏 二 一 原 八 二 五 尾 平 二 九 野 天 王 寺 三 一 山

●淡町奈長及王寺櫻井間

淡町ヨリ (上リ) 王 寺 柏 二 一 原 八 二 五 尾 平 二 九 野 天 王 寺 三 一 山

奈長ヨリ (上リ) 王 寺 柏 二 一 原 八 二 五 尾 平 二 九 野 天 王 寺 三 一 山

郡 四 山 法 隆 寺 王 一 三 寺 柏 二 一 原 八 二 五 尾 平 二 九 野 天 王 寺 三 一 山

●淡町ヨリ (上リ)

淡町ヨリ (上リ) 王 寺 柏 二 一 原 八 二 五 尾 平 二 九 野 天 王 寺 三 一 山

郡 四 山 法 隆 寺 王 一 三 寺 柏 二 一 原 八 二 五 尾 平 二 九 野 天 王 寺 三 一 山

●淡町ヨリ (上リ)

淡町ヨリ (上リ) 王 寺 柏 二 一 原 八 二 五 尾 平 二 九 野 天 王 寺 三 一 山

一四九

湊三五町 櫻井畝 四火 高八田 下二田 王八寺
 兵庫二庫 須五磨 舞九子 明一石 大久保 土二山 加古川
 阿彌九陀 姫三路 網四千 龍四野 那四波 庭五年 三六石
 吉永八和 七氣 瀬七戸 長七岡 岡七山 有五年 倉六敷
 玉八島 鴨八方 笠九岡 福七山 尾七道 糸八崎
 三原一本 八郷 河九内 西二條 海田市 廣三島
 海田市 瀨野 西二條 河二内 本三郷 三原 糸四崎
 尾道四六 松五二 福五八 笠六四 鳴七三 玉七九 倉八五
 (下リ) 神戶廣島間 (上リ)

庭九瀬 岡九山 長一岡 瀬一戸 和一氣 吉永 三二石
 有二年 那三波 龍三野 網三干 姫三路 阿彌陀 加古川
 土三山 大久保 明三石 舞三子 須三磨 兵三庫 神三戸
 姫路寺前間

野里香品 福崎 甘地 鶴居 甘地 福崎 香品 野里 姫路
 一〇 一六 一九 二三 二七 一八 一一 一七 二四 二七
 (下リ) 門司熊本川尻間 (上リ)

大里小倉 黒一崎 折二尾 遠賀川 赤三間 福四間
 古賀香 五〇 箱五崎 博五多 雜餉隈 二日市 原六田
 田七代 鳥七六 久留米 八一 羽大塚 矢部川 渡六五 大卒六
 全國汽車乘車賃金表 一五一

長州 一五
高瀬 一三
木葉 一八
植木 一三
池田 一四
熊木 一四
〇熊本

池田 三田 (上リ)
植木 九木
木葉 一五
高瀬 二一
長州 二八
大平田 三七
渡 四三

矢部 四八
羽大塚 五三
久留米 六三
鳥栖 六七
田代 六八
原七田 七四
二日市 七八

雜餉 八三
博多 八七
箱崎 八九
香椎 九三
福三間 一〇三
赤間 一一一

遠賀川 一三〇
折尾 一三三
黒崎 一三六
小倉 一三五
大里 一四〇
門司 一四三
〇川尻

熊本 四本
鳥栖 佐賀間
神七崎 (上リ)
中三原 鳥九

折尾 (下リ)
中一四間
植木 直四方
小三〇竹
総三四田
飯三八塚

直方ヨリ金田線マテ十錢ナリ
直方 金田間
中二四間
折二八尾
若三八松

普通寺 多度津 丸一〇龜
高瀬外側 平井河原間
多度津 三津 (上リ)
普通寺 八寺 琴一〇平

次米立 (下リ)
〇四花外 〇五側
古六五町
三九津 高濱 一〇五

三津古 (上リ)
〇四町外 〇五側
立六五花
久米 平井河原 一〇五

全國汽車乘取賃金表
一五三

品	船	信濃	日	立	四	●牛込	八王寺間
四川	六橋	三三	〇五	二六	〇一	(下リ)	
目	千	三三	野	五川	二五		
六	二〇	三三	立	二九	〇二		
瀧	新橋	市川	〇八	五野	二五		
八	赤羽	佐倉	八	五野	二五		
新	羽間	倉間	川	五野	二五		
一			分	五野	二五		
〇			三	五野	二五		
目	千		町	五野	二五		
二	四葉		境	五野	二五		
白	船		八	五野	二五		
板	二八橋		萩	五野	二五		
一	市		二	五野	二五		
四	三川		四	五野	二五		
橋			窪	五野	二五		
赤			一	五野	二五		
一			〇	五野	二五		
六			五	五野	二五		
羽			五	五野	二五		

一五四

板	結	内	赤	川	砥	枋
二橋	五城	四原	塚	四島	上	木
目	川	赤	内	結	鹿沼	岩舟
四	八島	塚	九原	四城	一七	二〇
白	下	水	央	五城	二五	二四
新	二	五	一	四城	三〇	二九
六	二	〇	四	五城	〇	三六
橋	二	五	一	五城	〇	四〇
瀧	二	〇	四	五城	〇	四三
八	二	〇	一	五城	〇	四八
谷	二	〇	一	五城	〇	五二
目	二	〇	一	五城	〇	五六
一	二	〇	一	五城	〇	六一
〇	二	〇	一	五城	〇	
目	二	〇	一	五城	〇	
二	二	〇	一	五城	〇	
白	二	〇	一	五城	〇	
板	二	〇	一	五城	〇	
一	二	〇	一	五城	〇	
四	二	〇	一	五城	〇	
橋	二	〇	一	五城	〇	
赤	二	〇	一	五城	〇	
一	二	〇	一	五城	〇	
六	二	〇	一	五城	〇	
羽	二	〇	一	五城	〇	

全國汽車乘車賃金表

一五五

豊 〇四野	直江津 五五	高田 六田	長野 六〇野	御代田 二〇〇田	高崎 一五五崎	王子 五子	栗橋 四〇橋	古田 八七田
卒 一〇禮	新上 一四井	篠井 一四井	篠井 一四井	輕井澤 一〇〇澤	東京(上野)青森間 八羽	赤羽 八羽	古河 四六河	長久保 九二保
柏原 一八原	關山 二四山	座七代 七二代	坂八〇城	横川 一三〇川	浦和 一五和	小田 一五和	小田 一五和	那須 一〇二須
關山 一三山	柏原 三七原	上八田 八八田	上八田 八八田	磯部 一四〇部	大宮 二〇宮	小金井 六三三	小金井 六三三	黒磯 一〇五磯
新井 一四井	卒四禮 四五禮	田九五中	田九五中	安中 一四六中	蓮二七田	石橋 六八橋	石橋 六八橋	黒田原 一〇九原
高田 一四九田	豊野 一五野	一小〇諸	一小〇諸	飯塚 一五二塚	久三喜 久三喜	宇都宮 七九宮	宇都宮 七九宮	豊原 一五二原

全國汽車乘車賃金表

一五七

駒形 五形	伊勢崎 九崎	國定 一三定	大間々 一八々	相生 二一相	小俣 二五小	足利 三三足	宮田 三七宮	佐野 四一野	岩舟 四七舟	坊木 五三木	小山 六一山
赤羽 八羽	一厥 一二厥	浦和 一五和	大宮 二〇宮	上尾 二六尾	桶川 二九川	鴻巣 三五巢	前橋 三八橋	高崎 七六崎	高崎 七六崎	高崎 七六崎	高崎 七六崎
吹上 四一上	熊谷 四六谷	深谷 五四谷	本庄 六二庄	新六八町	倉賀野 七二野	高崎 七六崎	前橋 三八橋	吹上 四二上	吹上 四二上	吹上 四二上	吹上 四二上
高崎 七七崎	倉賀野 一一野	新五町 一五町	本庄 二一庄	深谷 二九谷	熊谷 三七谷	吹上 四二上	吹上 四二上	桶川 上四野	桶川 上四野	桶川 上四野	桶川 上四野
桶川 五四川	上尾 五七尾	大宮 六三宮	浦和 六八和	赤羽 七一羽	赤羽 七一羽	王八子 七八子	王八子 七八子	飯塚 三三塚	飯塚 三三塚	飯塚 三三塚	飯塚 三三塚
飯塚 三三塚	安井 九中	磯部 一四〇部	松井田 二〇田	横川 二五川	輕井澤 三五澤	御代田 四四田	御代田 四四田	小諸 一四諸	小諸 一四諸	小諸 一四諸	小諸 一四諸
小諸 五三諸	田中 六〇中	上坂 六七上	坂城 七五城	座代 八三代	篠井 八七井	長野 九四野	長野 九四野	飯塚 一五二塚	飯塚 一五二塚	飯塚 一五二塚	飯塚 一五二塚

一五六

全國汽車乘車賃金表

沼 四八崎	古 三三三河	長 三〇三保	矢 二六六吹	桑 二二五折	仙 二〇二壑	新 一八二田	花 一四九卷	小 一〇二谷	沼 四八崎
古 三三三河	栗 三三三橋	古 三〇三保	白 二七三河	福 二二五島	增 二〇五田	瀬 一八五峯	黒 一五七尻	中 一〇七山	古 三三三河
下 六三田	久 三三喜	宇 三一宮	豊 二七八原	松 二三八川	岩 二〇八沼	小 一八九田	水 一六六澤	沼 一〇二内	下 六三田
尻 七一内	遠 三三六田	石 三一八橋	豊 二八八原	二 二四二松	二 二〇木	鹿 一九九臺	前 一六九澤	好 一〇六摩	尻 七一内
三 八六戸	大 三五宮	小 三三井	黒 二八六磯	本 二四七宮	大 二二二原	松 一九五島	一 一七四關	盛 一〇二岡	三 八六戸
福 九八岡	浦 三五四和	小 三三六山	那 二九二須	郡 二五四山	白 二二六石	利 一九八府	花 一七八泉	日 一三九詰	福 九八岡
一 〇〇戸	巖 三五六	問 三三九田	矢 二九七板	須 二六〇川	越 二一九河	岩 二〇〇切	石 一八〇越	石 一四二谷	一 〇〇戸

青 二森	野 三五九内	古 三二七木	中 二八四山	黒 二三九尻	瀬 二〇七峯	増 一八七田	福 一六五島	白 一〇六河	青 二森
浦 八町	浦 三三三町	沼 三三二崎	小 二九二谷	花 二四五卷	新 二一〇田	仙 一九〇臺	桑 一六九折	矢 一三三吹	浦 八町
淺 二虫	青 三六四森	乙 三三六供	一 二九四戸	石 二五〇谷	石 二二二越	岩 一九二切	越 一七三河	須 一三〇川	淺 二虫
小 一九湊	野 三四三地	福 二九七岡	日 二五三詰	花 二一四泉	利 一九四府	白 一七六石	郡 一三七山	郡 一三七山	小 一九湊
狩 二七澤	狩 三四六澤	三 三〇六戸	盛 二六二岡	一 二八八關	松 一九七島	大 一八〇原	本 一四六宮	本 一四六宮	狩 二七澤
野 三三二地	小 三五五湊	尻 三二七内	好 二七三摩	前 二二五澤	鹿 二〇一臺	二 九二木	二 五二松	二 五二松	野 三三二地
乙 四二供	淺 三五六虫	下 三二二田	沼 二七八内	水 二三〇澤	小 二〇三田	岩 一八四沼	松 一五八川	松 一五八川	乙 四二供

赤羽王 上野
三五九 三六一 三六四

●岩切 鹽釜間
鹽釜行ハ仙臺ノ次驛岩切ヨリ分ル貨錢三錢ナリ

●尻内 湊間
青森線ノ内ニアリ 内ヨリ八ノ月マテ四錢八ノ月ヨリ湊マテ二錢ナリ

●手宮 幌内太並夕張室蘭間
手宮ヨリ 住 三吉 朝 八里 錢 一五函 輕 三川 琴 二八似 札 三二

野 幌 江 五別 幌 五向 岩見澤 六七
岩見澤ヨリ 幌内太 粟 一七山 由 二仁 追 三四分 苦小牧 六六牧 白 八四老

登 別 幌 一〇六 室 一八關
登分ヨリ 紅葉山 夕張 三八張

(上リ)

室蘭ヨリ 幌 二別 登 一七別 白 三四老 苦小牧 五二 追 八四分 由 九七仁

栗 一〇三 岩見澤 夕張ヨリ 紅葉山 道 三八分 江別 野幌 札幌 琴似 輕川 錢函 朝里 住吉 手宮

岩見澤ヨリ 幌向 一八別 野幌 札幌 琴似 輕川 錢函 朝里 住吉 手宮
●岩見澤 空知太 歌志内 間

(下リ)
岩見澤ヨリ 峯延 美唄 奈井江 砂川 空知太 歌志内
八 一五 二四 三二 三六 砂川ヨリ 一三

(上リ)
空知太ヨリ 砂川 奈井江 美唄 峯延 岩見澤
四 一二 二一 二八 三六

●標茶 跡佐 登間

(下リ) (上リ)
跡佐登 (ウノシコイ) (ニタトリ) 標茶 (ニタトリ) 標茶 (ウノシコイ) 跡佐登
ヨリ (チャルシベ) (マツプ) ヨリ (マツプ) ヨリ (チャルシベ) 二六

全國汽車乘車賃金表

○全國汽車發着時間表

機春別ヨリ幌内太マテ七錢
 厚別ヨリ札幌マテ十錢
 早來ヨリ小牧マテ廿一錢
 右乘車賃金ハ下等ノミナシ上、中等ヲ岩ス但シ中等ハ凡ソ下等ノ二倍、上等ハ凡ソ下等ノ三倍(日本鐵道、山陽鐵道及讀破鐵道會社チ除キ)ナリ

○全國汽車發着時間表
 瀛車發着時間ハ時々改正アリ此表モ後日晝餅ニ屬スルノ恐アリ故ニ最近ノ調ニヨリ其大要ヲ掲ク

●新橋橫濱間

(上リ)	發着	發着	發着	發着	發着	發着	發着
午	九一五	八二〇	一三三五	一二三〇	九〇五	八一〇	一〇、四〇
午	六、四五	七〇五	八二五	九三五	一〇、二〇	一一、〇〇	一二、四〇
午	六、〇〇	七三五	八五〇	九三五	一〇、二〇	一一、〇〇	一二、四〇
午	六、五〇	七三五	八五〇	九三五	一〇、二〇	一一、〇〇	一二、四〇
午	六、〇〇	七三五	八五〇	九三五	一〇、二〇	一一、〇〇	一二、四〇
午	六、五〇	七三五	八五〇	九三五	一〇、二〇	一一、〇〇	一二、四〇
午	六、〇〇	七三五	八五〇	九三五	一〇、二〇	一一、〇〇	一二、四〇
午	六、五〇	七三五	八五〇	九三五	一〇、二〇	一一、〇〇	一二、四〇

全國汽車發着時間表

(下リ)	發着	發着	發着	發着	發着	發着	發着
午	六、〇〇	六、五五	七、四五	八、五〇	九、三五	一〇、二〇	一一、〇〇
午	六、五〇	七、四五	八、五〇	九、三五	一〇、二〇	一一、〇〇	一二、四〇
午	六、〇〇	六、五五	七、四五	八、五〇	九、三五	一〇、二〇	一一、〇〇
午	六、五〇	七、四五	八、五〇	九、三五	一〇、二〇	一一、〇〇	一二、四〇
午	六、〇〇	六、五五	七、四五	八、五〇	九、三五	一〇、二〇	一一、〇〇
午	六、五〇	七、四五	八、五〇	九、三五	一〇、二〇	一一、〇〇	一二、四〇
午	六、〇〇	六、五五	七、四五	八、五〇	九、三五	一〇、二〇	一一、〇〇
午	六、五〇	七、四五	八、五〇	九、三五	一〇、二〇	一一、〇〇	一二、四〇

新橋靜岡名古屋京都大阪神戸
 新橋靜岡名古屋京都大阪神戸

一六三

全國汽車發着時間表

一六五

午後部		午前部		後部	
八〇〇	二〇〇	二〇〇	九〇〇	六〇〇	四二五
前	後	後	後	後	後
七五四	六〇四	四〇〇	二〇四	一〇〇	五五二
前	後	後	後	後	後
八四三	一〇三五	五五六	五二二	二二〇	七〇四
午後部		午前部		部	
八〇〇	三三五	一〇五	一〇四	六二〇	七二〇
後	後	後	後	後	後
二二五	一〇三四	七三五	四三三	三三三	八二二
前	前	後	後	後	後
八四五	一四〇	一〇四〇	七三二	六四八	九四八

午後部		午前部		後部	
二五五	一四〇	二〇〇	九〇〇	六〇〇	四二五
前	後	後	後	後	後
四三三	三三三	二二八	九五六	八二六	五五二
前	後	後	後	後	後
五三〇	四三三	三三三	一三三	九三七	七〇四
午後部		午前部		部	
六二〇	五〇〇	三三〇	一〇五	九四〇	八二〇
後	後	後	後	後	後
七一九	六二二	四二五	二五三	一〇七	九三三
前	前	後	後	後	後
八四八	七四六	五五七	四二四	二三八	九四八

一六四

全國汽車發着時間表

(下り)	(上り)	(下り)	(上り)	(下り)	(上り)
着發	着發	着發	着發	着發	着發
九五五 七三〇	九二〇 七五〇	九二〇 七三〇	七四三 六二四	五二五 六一五	六五五 五一八
午 前	午 前	午 前	午 前	午 前	午 前
八王子部	小 山部	水	市 川部	新 橋部	赤 羽部
四三〇 七三五	二二〇 一〇〇	八五〇 七三〇	七四三 六二四	九二五 八一五	九二五 七二九
午 後	午 後	午 後	午 後	午 後	午 後
八王子部	小 山部	水	市 川部	新 橋部	赤 羽部
六二〇 五一五	二〇〇 一〇〇	八五〇 七三〇	七四三 六二四	九二五 八一五	九二五 七二九
午 前	午 前	午 前	午 前	午 前	午 前
八王子部	小 山部	水	市 川部	新 橋部	赤 羽部
八五〇 七三五	二二〇 一〇〇	八五〇 七三〇	七四三 六二四	九二五 八一五	九二五 七二九
午 後	午 後	午 後	午 後	午 後	午 後
八王子部	小 山部	水	市 川部	新 橋部	赤 羽部
六二〇 五一五	二〇〇 一〇〇	八五〇 七三〇	七四三 六二四	九二五 八一五	九二五 七二九

後午	前午	後午	前午
午	午	午	午
八王子部	八王子部	八王子部	八王子部
四〇五	四三〇	四〇五	四三〇
午	午	午	午
八王子部	八王子部	八王子部	八王子部
七五〇	七二五	七五〇	七二五
午	午	午	午
八王子部	八王子部	八王子部	八王子部
四〇五	四三〇	四〇五	四三〇

又米は早稻、中稻、晚稻、陸稻及種粃等を一品とするの類なり。○七 第六條 陳列以外の數量は審査終了までは出品人に於て他に保管し置き審査終了の上は適宜處分することを得但審査の爲め其數量を減耗することあるべし。○八 尺度、斗量、衡量等を以てするものと雖も商業上慣用の包装を以て出品することを得但長大の包装物は此限にあらす。前項の場合に於ては第五條の箇數、卷束及組物の制限に依る。包装中の物質を知るの必要あるものは別に見本を添付すべし。○九 審査の爲め消耗し又は引き分け難き出品は審査用として別に同一の物品を差出すべし。包装のみを陳列するもの(第一類其六)は審査用として別に其實物を差出すべし。○十 出品人は左の雜形に依り付札を調製し陳列の際出品に附着すべし(雜形略)。○十一 出品荷物は各出荷人に於て他に保管し置き其日陳列を爲し得らるゝ分つ、場内荷解所に搬入し外箱を脱したる後順次陳列所に持込べし又荷造りせざる分は直に陳列所に搬入することを得但明き箱は即日場外へ搬出するものとす。○十二 第五部第四十一類の出品は解説書に於て其實現成績等を精細に叙述すべし。○十三 出品人に於て出品の製造人又は協賛人に褒賞を請はんと欲するときは其旨を解説書中「審査請求の主眼」の項を記すべし。○十四 館外に於て雨覆を要すべき出品は其容積を明治二十七年七月三十日まで事務局に申出べし。○十五 總て出品人より事務局に差出す書面は地方廳又は在京地方委員を経由すべし但急遽の事件は此限にあらす。

○金鷄勳章年金令

第一條 金鷄勳章を賜ふ者には功級に應じ終身年金を加賜す

第二條 金鷄勳章年金の定額は左の如し

- 功一級 九百圓 功二級 六百五十圓
- 功三級 四百圓 功四級 二百十圓
- 功五級 百四十圓 功六級 九十圓
- 功七級 六十五圓

第三條 本令の年金受領者死亡したるときは仍一年間遺族に其年金を賜ふ
第四條 前條の遺族とは寡婦孤兒父母及び祖父母にして年金受領者生存中より戸籍簿に登録したる者を云ふ

第五條 本令の年金は他の勳等年金又は恩給を受くるに妨なきものとす
第六條 本令施行に關する細則は閣令を以て之を定む

●官員錄摘要 明治廿七年十一月現在

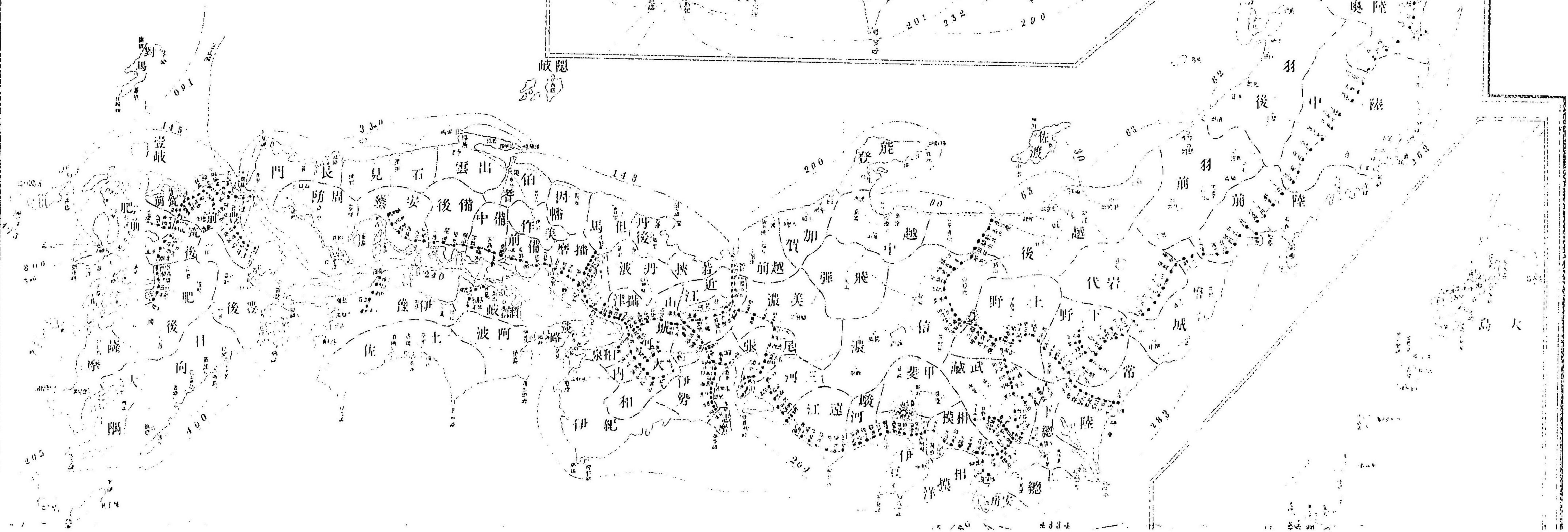
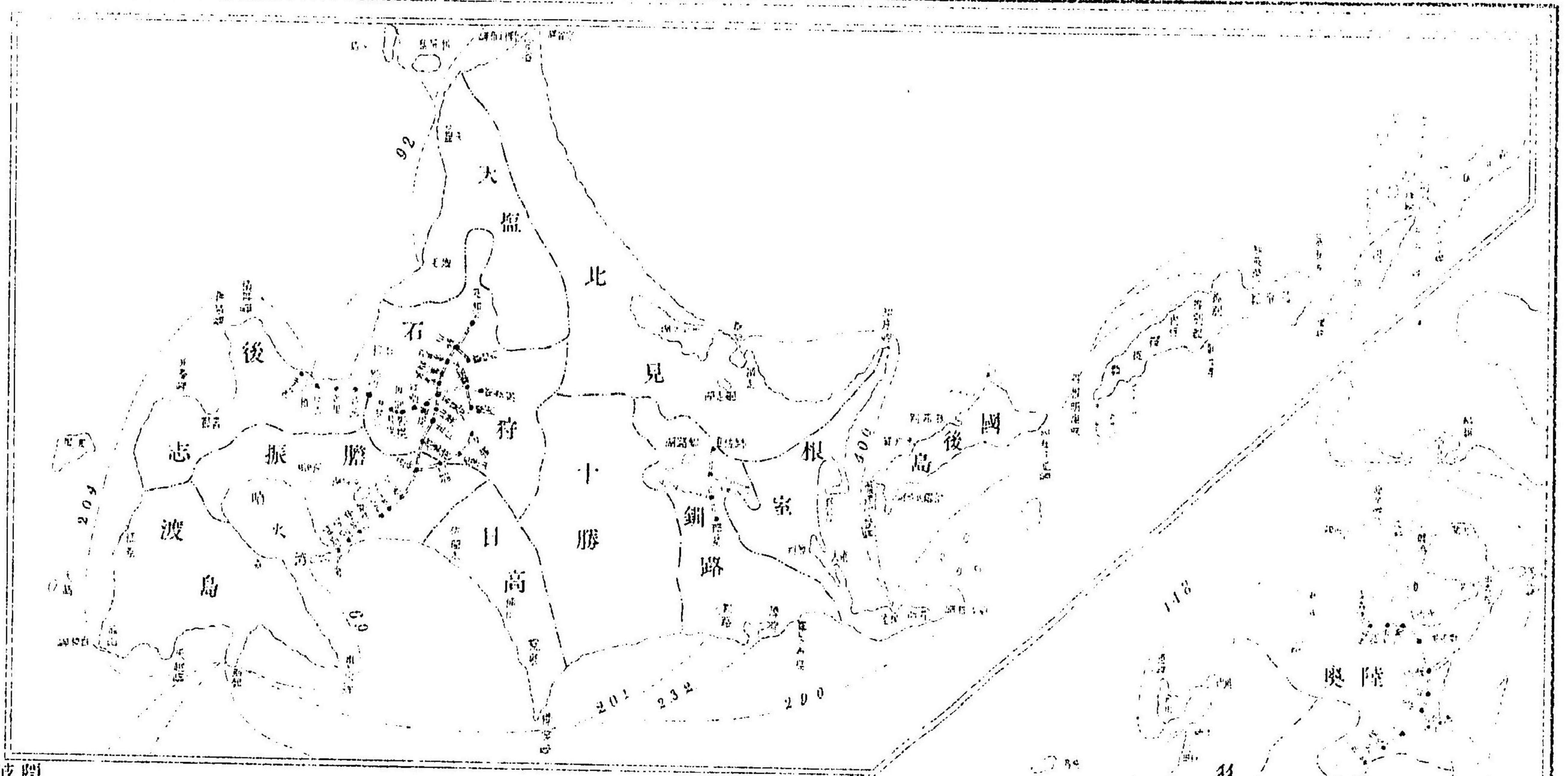
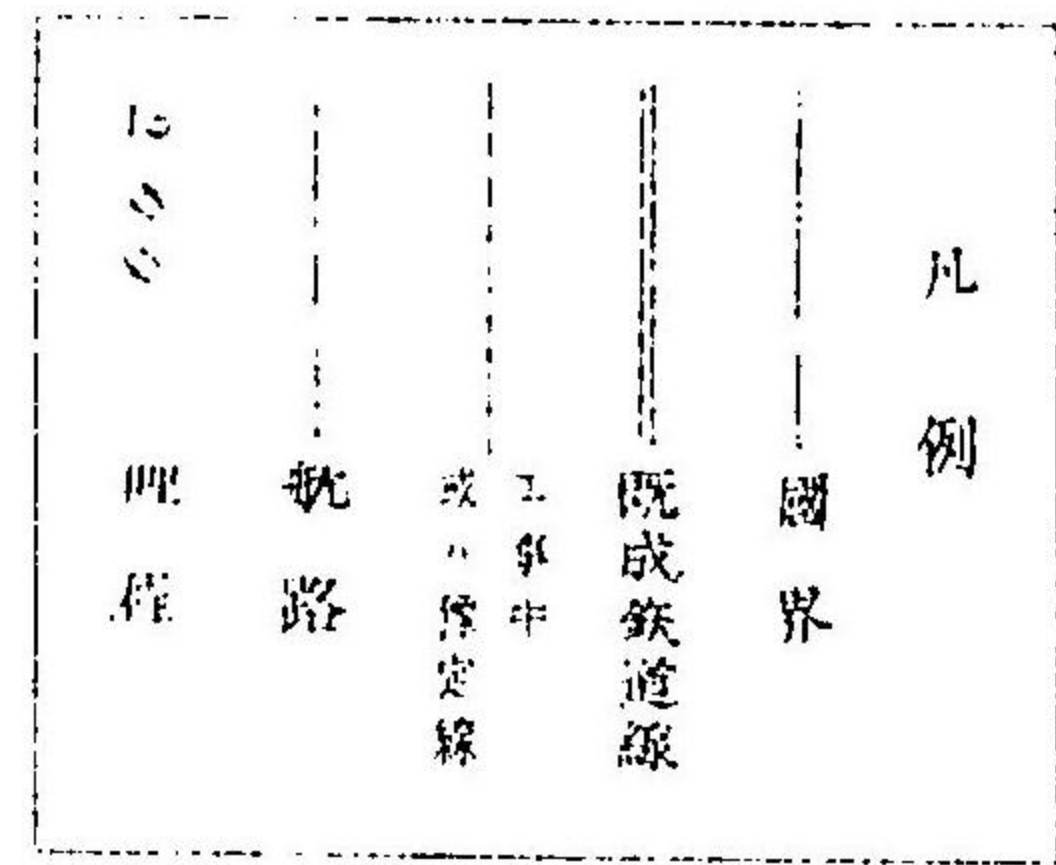
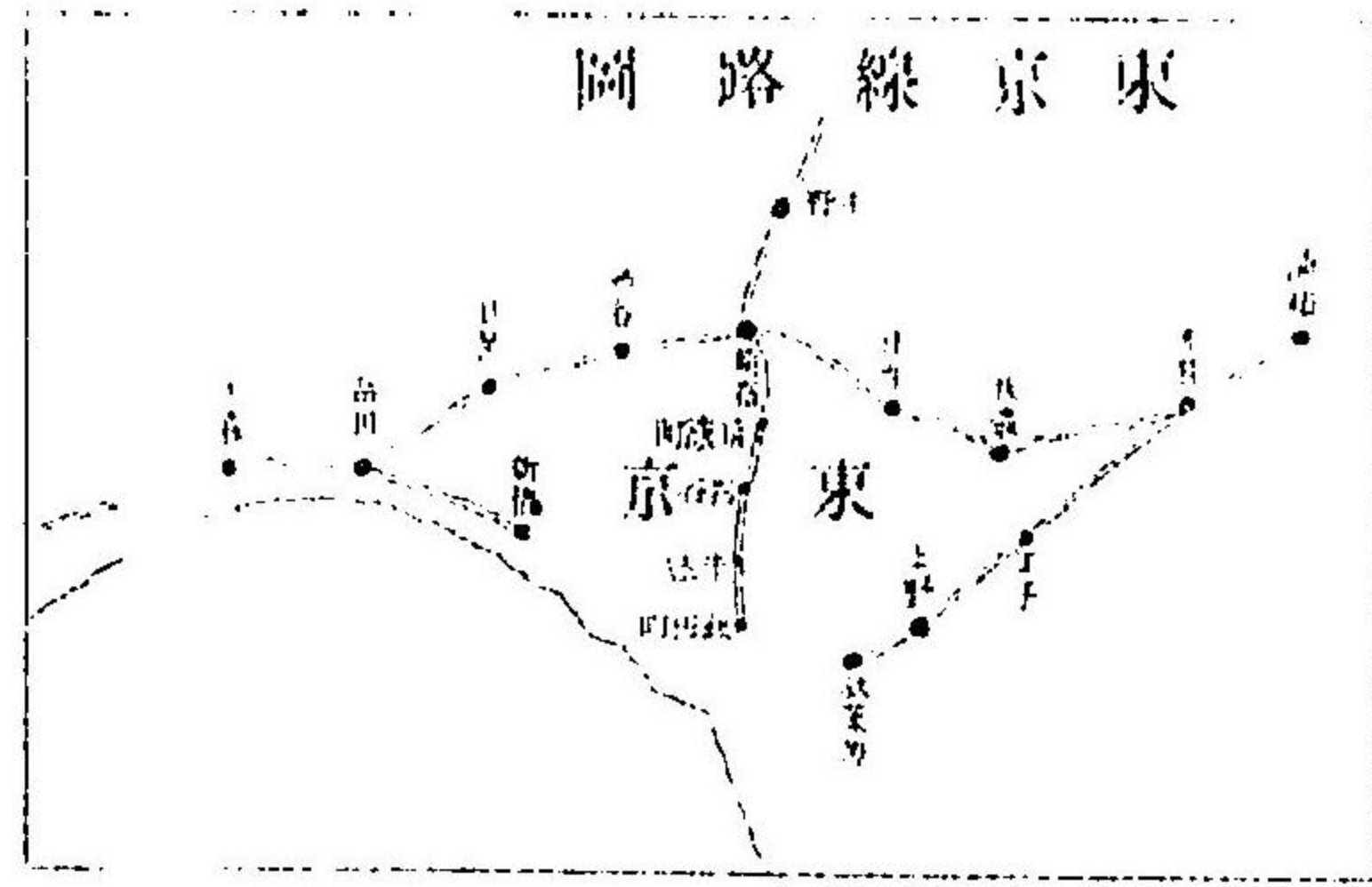
總理大臣	伊藤博文	書院官長	侯爵	伊東巳代治
遞信大臣	黑田清隆	賞勳局長	西園寺公澄	
陸軍大臣	野村浩一	法制局長	末松謙澄	
內務大臣	野村武揚	恩給局長	全	
農商務大臣	榎本武揚	議長	山縣有朋	
外務大臣	陸奥宗光	副議長	川村純義	
大藏大臣	渡邊武光	顧問官	伯爵 佐野常民	
文部大臣	芳澤謙吉	全	伯爵 佐野常民	
司法大臣	川島實	全	子爵 佐野常民	

金鷄勳章年金令

官員錄

内懐申節用終

船積 のふ とん と	立方 ふん ち	立方 いん ち	立方 ふん ち	英吉利 立方尺	本邦 曲尺
十六坪 六六 二八 二	四十二坪 六四 二六 四	二十一坪 七七 二	〇一坪 〇〇 〇九 三	〇一坪 〇〇 〇九 八	〇一坪 〇〇 〇九 五
	平方 ふん ち	平方 いん ち	平方 ふん ち	英吉利 平方尺	本邦 曲尺
				九步 〇〇 六六 一一 一	一歩 〇〇 七三 四一





凡例

——	國界
——	既成鐵道線
——	工事中
——	或、特定線
——	航路
——	里程

